男子・竹野奉昭氏　女子・井　薫氏
～全日本の新監督決まる～





男子・竹野奉昭氏、女子・井薫氏――新しいナショナルチームの指導者が決まった。

日本協会技術部は、6月30日午前10時から東京の岸記念体育会館で全国委員会（渡辺慶寿部長ら13名出席、委任状10＝現在数26名）を開き、男女ナショナルチーム監督の任期満了（各世界選手権終了時）にともなう新人事について協議、長時間にわたる検討の末、男子は元全日本コーチ竹野奉昭氏（38才、大崎電気総監督、日体大出＝写真左）を初めて監督として選出。

女子は昨年度全日本監督井薫氏（い・かおる、36才、立石電機コーチ、前大洋デパート監督、中大出）を引きつづき推すことに決めた。

日本協会は、7月1日東京で緊急常務理事会を開き、この技術部案を異議なく承認、評議員、理事などには文書連絡した。

ナショナルチームの監督は、これまでの例だと、世界選手権（またはオリンピック）を一つの区切りとみて、そのつど〝更新〟を検討するのが不文律となっていたが、今回以降は、特にそのような「任期」を設けず、さい配をゆだねることになった。

竹野、井両監督とも熊本・済々黌高の出身。

なお、男女コーチングスタッフについては渡辺（慶）技術部長と両監督が話しあい、男子は東嘉伸氏（36才、大阪協会理事、日体大出）、女子は鈴木義男（38才、田村紡監督、第5回世界女子選手権コーチ）、池田鉄哉（33才、日本ビクター監督、48年度全日本女子コーチ）、藤原侑（32才、日体大女子監督、48年度全日本女子コーチ）の各氏を決め、7月13日の月例常務理事会へ報告、承認をうけた。

注目の49年度ナショナルチームは男女とも8月上旬に発表される予定。

モントリオールへの道

別掲のとおりナショナルチームの男女監督が決まった。

本誌前号でも伝えられていたが、今回の人事は日本協会技術部の推せんをそのまま承認したもの。

女子はこれまでにもこうした例はあるが、男子では初めて、男女同時発表というケースも初めて。まさに画期的、といってよいだろう。

日本ハンドボール界は、その歴史の浅さからか、若さからか〝人事問題〟になると百家争鳴いちど決議したあとも、何かすっきりしない印象さえ与えることがあった。

それが、ミュンヘンオリンピック前から、ようやく衆議一決の体制が採られるようになった。あたりまえの事態なのだが、斯界にとって、これは前進である。

今回はさらに一歩進めて、技術部決定イコール協会決定という大方針を打ちたて、実現させた。

監督一人だけが悩み、走りまわっていたような過去に比べ、これで、技術部も、監督と同体という連帯感が生まれるだろうし、いささか中途半端だった同部そのものの動きも、いちだんと活溌になるだろう。

新監督の両氏も、今後の強化方針は、技術部内またはコーチングスタッフと徹底的にディスカッションしたうえで、実行に移して欲しい。

ことわっておくが、筆者は歴代監督が独断専行であったといっているのではない。

今後は、より深く高い視野をバックにして、いっそうの充実に励んで欲しい、と思っているのだ。

それでなければ、ナショナルチームのプロジェクト化という理想をようやくにして実現させた甲斐はなかろう。

一方、竹野、井両氏が、技術部の代表という意識が強すぎて個性をうすらさせてしまうようなさい配では困る。時には、強引に突き進むべきだし、自我を通すことも必要だ。

二人のキャリアと理論は、それが許されるだけの豊かさがあるし説得力があると思う。

ミュンヘンの時は、ただ無我夢中で走ったものだ。

モントリオールへは、しっかりした体制が、しっかりした理念をもって歩むべきだろう。

その先導役として両氏と技術部への期待は大きい。

（杉山）

「ハンドボール」49年7月号（第122号）目次

【表紙写真】全日本女子実業団・重機×ビクター戦、重機の速攻、古佐原のシュート決まる寸前（7月7日岩手県営体育館）【提供・岩手日報】

全日本男女『モントリオール』へ始動

技術部中心　頂点強化の専業化企る

日本協会は、1頁所報のとおり、7月13日の月例常務理事会で、男女ナショナルチームの新しいコーチングスタッフを決め
女子は、来年12月の世界選手権(上位5ケ国にモントリオールオリンピック出場権が与えられる予定)、男子は2年後のモントリオールオリンピックを目指して〝出発〟することになった。
頂点強化の周辺を探ってみよう。

人事権、技術部一本で

頂点強化の柱となるコーチングスタッフの決定は、本誌でも再三伝えられているように、いっさいを技術部に委せるという新しい方法が採られた。

ナショナルチームの監督と云えば、日本ハンドボール界にあっては理事長に比肩する要職。その人事を一部会へ全権委任するのはどうか、という声もあったが、むしろ、技術畑以外の役員までもが、ああでもない、こうでもないと議論するより、エキスパートの集りである技術部会が、人格、理論、統卒力、キャリアなどを勘案し選び出すのが最善である、という考えがここ二、三年の間に斯界にも醸成され、今春2月の全国会議(評議員会、理事会)で、渡辺(慶)技術部長が示した「技術部新機構」を無修正で承認している(本誌117号参照)。

技術部会が、ナショナルチームの指導人事を手がけたことは、これまでにも女子の世界選手権監督や、ヤング(男)のコーチ団などに実績があるが、男子を包含したのは初めてである。

「技術」「運営」の分立へ

日本協会が、これまで、特に男子の全日本監督に限っては、一部会に委せず、それなりの機関で検討して決めていたのは、その時々の事情によるものだが、日本協会の事業が巨大化、国際化するにしたがって、このようなシステムに疑問が投じ始められていた。

従来の競技団体は〝技術優先〟で「主」の立ち場をとり、本来業務とも云うべき事務・運営は「縦」の立ち場であることが多かった。

東京オリンピック(昭39)前から、技術―運営を二分させる傾向が目立って来たが、ハンドボールは、東京オリンピックで行われなかったこともあり、この面での意識が高まる機運がなく、旧態から脱け出すのに、かなり手間どった。

田村―荒川体制の「宿願」
成果あげる審判部ら

44年、いわゆる田村(会長)―荒川(理事長)ラインが確立し、競技面、運営面の色分けを狙ったが一朝にして成らず、今回の人事発表を、一つの到達点と考えれば5年の才月を要したことになる。

この間には、審判部、編集部、財務(会計)部などが〝専業化〟に近い形態を採るようになり成果をあげ、ミュンヘンオリンピックアジア予選(46年11月)の前には総務・企画部門も〝独立〟へ一応の体裁を整えたが、焦点ともいうべきナショナル人事を司るパートの専門化は、なかなかの難産であった。

事情通は競技団体の役員は「現役時代の実績」が、尺度にされるケースが多く、技術問題、強化問題になるとほとんどの役員に一家言あり、まとめにくい、といっている。ハンドボール界もその例外ではなかったようだ。

しかし、そうした慣行、過去のいきさつをいっさい打破して、技術部に、頂点強化のすべてを一任する体制を整えたのは、荒川体制のクリーンヒットと云ってよく、日本協会の体質改善第一弾として評価するムキもある。

両監督と技術部 は密着を

こうした日本協会内の専業化、プロジェクト化は、今後ますます盛んになるであろうし、各部会、各委員会の決議は、日本協会決定でもある、という姿勢は専門委員会の存在をクローズアップさせる。

特に、頂点強化を預る技術部の動きは、今後、全国の大きな注目の的になるだろう。

その意味で、技術部が、今回推せんした男子・竹野奉昭監督、女子・井薫監督を、どう盛りあげていくかは大きな責任をともなっている。

また、両監督やコーチングスタッフも、技術部会から浮き上った存在になってしまっては拙いわけで、両者が太いパイプで結ばれることを期待したい。

むしろ厳しい「任期無期限」

ところで、竹野監督はコーチに東嘉伸氏を、井監督は鈴木義男、池田鉄哉、藤原侑の3氏を推した。

女子の3コーチは、昨年度もこの顔ぶれで指導陣を編成、いわば留任である。

一新した男子は、日体大時代か

これまでの全日本監督(第2次大戦後)

【男　子】

①昭31・来日西ドイツ戦(11人制)　荒川　清美
②昭36・第4回世界選手権　高嶋　洌
③昭39・第5回世界選手権　高嶋　洌
④昭40・中国遠征　岡村　昭二
⑤昭41・来日中国戦　村田　弘
⑥昭42・第6回世界選手権　村田　弘
⑦昭42・来日西ドイツ選抜戦　北村　尚英
⑧昭44・欧州遠征　村田　弘
⑨昭45・第7回世界選手権　村田　弘
⑩昭46・ミュンヘン五輪アジア予選　村田　弘
⑪昭47・ミュンヘン五輪(コーチ)　近森　克彦
⑫昭49・来日ユーゴ戦及第8回世界選手権　北川　勇喜
(注)・昭34に参加予定の第15回世界11人制選手権は高嶋洌
・ミュンヘン五輪の実質的なベンチワークは日本協会派遣の村田弘オリンピック対策部長とＪＯＣ派遣の竹野奉昭補助役員がとり，近森克彦は選手に専念。

【女　子】

①昭37・第2回世界選手権　高嶋　洌
②昭40・第3回世界選手権　高嶋　洌
③昭42・来日西ドイツ選抜戦　宇津野年一
④昭46・第4回世界選手権　山田　計
⑤昭48・第5回世界選手権　井　薫
(注)・昭43に流会となった世界選手権は小糸是郎。

ら名コンビをうたわれた仲。

竹野監督は、かねがね、日本が世界の上位へ進出するには、ディフェンス力の向上がカギと云っており、華麗なプレーで定評のあったバックス出身の東氏を起用したのも肯ける。

なお、男子は、今後、機をみてコーチの補充も行われる、と伝えられている。

また、ヤング全日本(男子のみ)の指導陣は、当分の間は、強化合宿前に指名する、というこれまでどおりの方針になる模様。

監督、コーチの任期については世界選手権を一つの区切りとする慣行があったが、今後は、そうした枠をはめこめず無期限。

これは、頂点強化には長期的な展望が不可欠という観点から採られるものだが、荒川理事長は「期限なしというのは、不都合なことがあれば、世界選手権などを待たず交替も意味する」と厳しさをつけ加えている。

ミュンヘン組再登場か
男子、まず「候補」合宿

さて、ナショナルプレイヤーの選考はどうなるのだろう。

男子は、1ケ月後に東ドイツ戦（注・全日本は4戦、4頁詳報）がせまっており、竹野、東両氏は渡辺(慶)技術部長とともに、具体的な作業を進めているがとりあえず7月28日から8月初旬にかけて東京で第一次強化合宿を行いその直後、東ドイツ戦に出場する代表選手を発表する意向だ。

第一次合宿参加者は、今春の世界選手権代表13名と、48年度ナショナルBの12名（本誌117号参照）のほか、5～8名が加えられる。

竹野監督は、7月13日の月例常務理事会で「この5～8名は、いわゆる新人のほか、ミュンヘンオリンピック出場者なども対象にしたい」と述べ了解を得ている。

ミュンヘン・オリンピック代表12名のうち、現在もナショナルチームへ残っているのは木野（湧永薬品）、中井（大同製鋼）、本田（GK・大阪イーグルス）の3人だけ。

これは、今春、代表選出の際、荒川理事長が「モントリオールを意識して若手中心の編成」を北川勇喜前監督と決めた結果によるもので、充分に、その効果を得た。

荒川構想は、今春の大会が優勝国を除いては、モントリオール・オリンピックに直接関係なく、むしろヨーロッパの空気を吸った選手を、日本協会の〝財産〟としてみていたもので、この若い力とキャリア充分な旧勢力の合体でより厚味のある全日本を造りたいというのが、新監督の気持ちだろう。

この30～33名のうち、ふるいにかけられて東ドイツ戦へ出場するのは半数程度と推測され、このメンバーが「昭和49年度ナショナル」ということになる予定。

女子も近く新陣容発表

一方、女子は、男子以上に経験がモノを云うわけだが、日本の場合、選手の第一線年令が若く、中がない。

しかし、幸いなことに今年は、昨冬の世界選手権代表12名のうち9名が、第一線で頑張っており、近来になく寿命の長い選手が揃っているのは心強い。

主力に予想される実業団のほか学生界もレベルアップの兆をのぞかせており、結局は20～25名をリストアップ、入れ替えを繰り返すことになるのではないか。

問題となるのは、世界選手権のアジア予選が行われるか、どうかだ。

IHF(国際ハンドボール連盟)への申しこみ〆切りは、今秋9月1日で、日本以外にエントリーがあれば、当然、予選が義務づけられる。

IHFは、予選期日として今冬12月2日から来春3月16日までの6期間をすでに発表ずみ。

渡辺(慶)技術部長と、井監督は8月なかばには名簿発表へこぎつけたい、としているが、強化計画は「エントーリの〆切り待ち」といった感じである。

再び斯界あげての支援を

こうして、男女ナショナルチームは、新たな活動体制を整え、再び、ミュンヘン・オリンピックを前にしたあの活気と盛りあがりを呼びおこそうとしている。

モントリオールへの道を、大きく切り開らくためには、ナショナルチーム関係者の努力もさることながら、日本ハンドボール界のすべての人の支援と協力も欠かすことはできない。

さらに今後は、技術部の積極的建設的な活動が、大きなポイントになることだろう。

強化対策部設けず 日本協会・荒川理事長は、7月13日の月例常務理事会で、モントリオールオリンピックを前に強化対策部は特設しないことを、重ねて表明した。

カナダ国際（来秋）参加へ 全日本男子

日本協会は、7月13日の月例常務理事会で、オリンピック強化対策の一つとして来年9月モントリオール（カナダ）で開かれる男子国際トーナメント「プレ・オリンピック(モントリオールカップ)」に参加することを決め申しこみ手続きをとった。

同大会は、カナダ協会が、モントリオール大会のリハーサル大会として開くもので、日本のほかルーマニア、ユーゴ、東ドイツ、西ドイツ、ソ連、デンマーク、チェコ、スペインにも参加が打診されており、このうち5ケ国とカナダによって大会が行われる予定。

なお、同協会は、来年2月に女子の国際トーナメントを計画していたが、これは御破算になったようだ。

イスラエル、西独Bに連敗

今春2月の世界選手権アジア予選で日本に敗れたイスラエルの動きが、久々に伝わってきた。

西ドイツB（注・ジュニアという報道もある）が、7月はじめテルアビブへ遠征したもので、西ドイツBが24－15、17－12で連勝（このほか練習試合も33－22で西ドイツB）した。

イスラエルのメンバーは、GKにセラがいぜん頑張っているほかマドモニ、ヨシホヴィッチ、ガルフェンド、テネンバウム、ガルゾンホフマンらが攻撃の主力。

イスラエルは、モントリオールオリンピックを目指して、今後も国際試合を行う予定、と伝えられており注目される。

全日本戦(4試合)いずれもTV中継

東ドイツ親善試合

日本協会は、このほど今シーズンのメイン・エベントともいうべき東ドイツ(ドイツ民主共和国)男子ナショナルチームの来日々程を別表のように確定した。

日本での試合は全日本との4試合(公式国際試合)をはじめ計6試合。来日する外国チームに対して全日本が4戦するのは、スウェーデン戦(46年9月)以来のことである。

全日本戦が、いずれもテレビ中継されるのは、まさに〝画期的〟

一週間のうち4日、ハンドボールがブラウン管に登場するのはかってないことで、全日本の健斗を望む声が高まっている。

全日本代表チームは、別掲のように、7月末東京で候補選手の合宿を行ったのちに発表されるが、モントリオールへの強化第1弾として、世界選手権2位の実力を誇る東ドイツに、どう挑むかは、たしかに、今後の日本ハンドボール界の消長を握るものといってよい。

日本と東ドイツは、これまで今春の世界選手権で顔を合せた1試合(31—16で東ドイツ)だけ。

日本にとっては、ホームコートに、この強豪を迎えて、なんとしても1勝はあげたいところだ。

日本が、宿願のベストエイトあるいは、それ以上に高いランク入りを果たすには、どうしても東欧の壁を突き破らねばならない。

しかし、近年における東欧勢の強さは驚異的なものがあり、ことに東ドイツ、ルーマニア、ユーゴソビエトの4強の実力は抜群。

言葉だけ、文字だけで知らされていた〝東欧の強さ〟をまのあたりにして、国内の関係者、ファンがどう受けとめるかも興味深いし今後の頂点強化施策に示唆することも多そうだ。

また、運営面では、昨秋のユーゴに匹敵する観客動員が期待される。

日本協会の、国際交流姿勢は「一シーズンに少くとも1回はヨーロッパの上位国を招きたい」にあるといわれるが、この成否はファンの動きにかかっている。

今回も、各会場へ多くのファンが足を運ばれることを望みたい。

なお、第1戦は、今年から内容を国際試合に変えた「NHK杯」の第21回大会として行われる。

(注、女子のNHK杯は今年は開かれない。)

東ドイツ側のメンバー(役員4選手16)は7月23日現在、発表されていない。

日程

◇来日 8月29日(羽田空港)
◇第1戦 8月31日(土)午後3時30分・対全日本①(東京体育館)NHK(総合)・TV
◇第2戦 9月1日(日)午後2時・対全日本②(東京体育館)TBS・TV
◇第3戦 9月4日(水)午後5時30分・対大同製鋼(名古屋・愛知県体育館)
◇第4戦 9月6日(金)午後6時・対兵庫選抜(神戸市中央体育館)
◇第5戦 9月7日(土)午後1時30分・対全日本③(大阪市中央体育館)MBS・TV
◇第6戦 9月8日(日)午後2時30分・対全日本④(京都府体育館)近畿放送TV
◇帰国 9月10日(羽田空港)
(注) 第1戦は「第21回NHK杯大会」として行われる

全兵庫に高校2選手

兵庫協会は、このほど東ドイツと対戦する「全兵庫選抜」の陣容を次のように決め発表した。

(全兵庫)▽監督 狩野幸介(県協会競技委員長)▽コーチ 栗山繁則(スワロー兵庫)小森謙一郎(神戸製鋼)▽GK 大谷(神戸製鋼)、上野(スワロー兵庫)▽FP松岡、藤田、井上、黒田、畑、北山、中村(以上スワロー兵庫)角谷、笹野、若木(以上神戸製鋼)橋本(県商ク)工藤(鈴蘭台高3年)、筱(明石南高3年)

国際審判員〝狭き門〟に

IHF審判委が改訂案

近着のヨーロッパ各国のハンドボール専問誌などによると、IHF(国際ハンドボール連盟)審判専問委員会は、その国際公認審判員規程について、近く、かなり思い切った改正を行うようだ、と伝えている。

現在、国際公認審判員は、IHF加盟国から毎年9月30日までに推せんをうけた審判員をそのまま認定しているが、今回の改訂案は一九六五(昭40)年まで採用していた「各国から推せんされた審判員は、ただ国際審判員の候補者にすぎない」という規程に戻したいとしている。この提案が通れば、国際公認審判員の称号と資格を得るにはIHF主催の講習会を修了しなければならない。

また、講習会も、これまでの中央講習会だけではなく、地域別講習会が新設されるようで、将来は地域別での課程を修了しなければ中央へ進むことはできなくするという。

国際公認審判員の年令についても、思い切ったカットが行われるようで、28～50才、30～45才、28～45才までの3案が用意されている模様だ。

地域別、中央とも講習会ではペーパーテストが行われるが、その使用語は独、仏、英、スペイン語で、このあと身体的適性を試すという厳しさである。

IHF審判専問委が国際公認審判員の資格決定基準を、これまで以上に厳格にしようとしているのは、最近、審判技術に対する批判が目立ちはじめているからといわれ、ヨーロッパ各国の技術畑は、この改正案に満足のようで、今秋10月のIHF総会(イタリア)にかけられれば、採択される可能性が強い。

なお、現在のIHF審判専問委員会委員長はエミール・ホルレ氏(スイス・元IHF技術委員長、昭46来日)である。

IHF北朝鮮を「仮のメンバー」に

IHF（国際ハンドボール連盟）は6月28日、加盟申請中の北朝鮮（朝鮮民主々義人民共和国）を「仮のメンバーにした」と渡辺和美アジア選出IHF理事（日本協会副会長）へ伝えて来た。10月イタリアで開かれるIHF年次総会まで仮のメンバーとし、その席上、準加盟国に推して2年後に正式加盟国にするのではと渡辺理事はみているが、日本協会の一部には、9月の時点で、一気に正式メンバーになるのではないか、という推測もたてられている。

同国が仮メンバーになったことで、交流は自由に行えるが、6月日本体育協会の使節団の一員として訪朝した日本協会保坂周助副会長（日体協国体委員長）の話では同国ハンドボール界の動静はまったく伝えられず、交流もちかけられなかったそうだ。

▽

日本協会は、北朝鮮のIHF加盟問題は、今秋の総会で検討されその時点で準加盟、そして2年後に正式加盟国になると踏んでいたが、今回、IHFが「仮のメンバー」として承認」を特に発表したことから、2年の期間をおかず、加盟国にする意向があるのではないか、ともみている。その場合、同国に世界選手権、オリンピックなどへの参加申しこみ資格が生じるわけで、今秋9月1日の切りの第6回世界女子選手権にほムりとしても、モントリオール・オリンピックへは、なんらかの動きを示すことになろう。

また、現在、準加盟国扱いをうけているインドやホンコン、「一時的準加盟国」といわれるイラクなども、IHF総会がどう取扱うか注目される。

世界学生は来年1月

全日本学連、参加を検討

日本協会は、このほどFISU（国際学生スポーツ連合）から、来春1月ルーマニアで開かれる第6回世界学生選手権（男子のみ）の招待状（大会要項）を受けとり、全日本学連へまわした。

同選手権は、2～3年に一度開かれるもの。日本は第1回（昭38スウェーデン）に参加しただけ。今回は全日本学連が前向きに出場を検討しているが、経費全額が個人負担になるなどの点で、正式決定にいたっていない。

第6回大会の期日は50年1月4日から12日まで、参加国数は16ケ国、予選リーグ（4ケ国づつ4組）のあと各組上位2ケ国が、さらに2組に分かれて準決勝リーグ、そのあと1～8位までを決める順位決定戦となる。なお、予選リーグ各組3位による9位決定リーグも行われる。

第1回の時、日本は7位だった。

高校男女いぜん上向き

日本協会登録集計

日本協会事務局はこのほど5月31日に〆切った今年度登録の集計を発表した。

それによると、昨年に比べ総計で一二四チームの増、このうち高校が99（男53、女46）といぜん上昇カーブを描いているのが目立つ

一般は、今年度からA、BをAに一本化したが男241、女49と男女とも昨年のAB合計よりわずかながら下廻った。（注・48年度男子A138、同B112、女子A25、同B25）。

しかしCは、昨年より男子は13女子2増で、今後この部門は追加が見込まれている。

総登録人口は延べ三四〇〇五名で約二千の増。

（49年度登録）一般A＝男241、女49、一般C＝男156、女16、学生＝男115、女＝18、高校＝男853、女577、登録人口（延べ総数）三四〇〇五（男二三六一一、女一〇三九四）

52年国体は青森に決定

日本体協国体委員会（委員長は保坂周助日本ハンドボール協会副会長）は、このほど総会を開き、昭和52年（第32回大会）の開催地に青森県～ハンドボールは野辺地町～を正式決定、53年（第33回）に長野県～ハンドボールは更埴市と戸倉町～を内定した。

荒川理事長出発

訪独スポーツ少年団々長

162人のスポーツ少年団員による訪独日本スポーツ少年団の団長となった日本協会・荒川清美理事長は、7月14日午前6時、羽田空港発のルフトハンザ特別機で、一行とともに、西ドイツへ向かった。8月17日午後帰国の予定。同理事長滞欧中の代行は徳永陸繁副会長が兼務する。

米本卯吉顧問亡くなる

日本協会顧問・米本卯吉氏（日本体育大学理事長・元日本協会副会長）は、7月6日午後10時21分慢性ジンウ炎のため東京で逝去された。88才だった。

葬儀は7月12日東京で日本体育会葬としてしめやかにとり行われた。これで日本協会顧問は6氏となった。

荒川理事長の話 日本ハンドボール界の草創期を知る古いかたが亡くなっていくことは、実にさびしい。

米本顧問は、戦前からボーイスカウト運動に力を入れられ、ドイツスポーツユーゲント交流が縁で昭和13～17年の日独ハンドボール対抗などの実現に努力された。昭和16年には副会長をお願いしていた。

「光島提言」（本誌119号）に冷静な読者の反応

本誌119号（49年5月号）に光島礎推日本協会常務理事が寄稿した「頂点強化・反省と将来への提言」をめぐり、その後、編集部あて8通の投書が寄せられた。

その多くは、ユニークな世界選手権リポートとして評価しているが、同時に理想論ではないか、という冷静な判断も目立つ。

◇

「光島提言」は、本誌に投稿、寄稿されたものとしては、かなり異彩を放つ内容であった。

特に体制内部から、いわば施策批判ともとれる発言があった点に注目も集ったのだが、本誌があえて掲載したことを含めてこれを「奇異に感じた」（愛知・田中滋章氏）との受けとりかたは少ない。

むしろ「派遣選手12名以内などという線を打ち出し、苦しいのではないかと思ったが、やはりそうなら〝精鋭主義〟は、すぐに撤廃したらよい」（東京・植田修司氏）、「超一流のプレーを示し満場の大喝采を浴びるかと思うと凡ミスをおかす、というみかたは我が意を得た。現在の全日本選手を精神的に鍛えなおす絶好の提言」（長野・一OB）とこれをきっかけに、頂点強化の洗いなおしを期待する声が強い。

しかし、「ヨーロッパ一流チームの現状と日本を比較するのは無理、許される範囲でベストをつくせばよい。上を見たらキリがない」（東京・星野達郎氏）

「海外派遣した学生が実業団で数年間プレーしなくては、元も子もない、という提言はいきすぎ」（横浜SK生）との意見もあり、星野氏、SK生氏は、今回の提言は現実ばなれしており、あまり説得力がないとみている。

田中氏の投稿は、本誌への希望が中心となっているが、特に「内部から批判された立場の人がそれを黙って見過していることも解せない」と日本協会執行部の光島提言に対する見解の発表を求めている。

ちなみに日本協会では、月例常務理事会でいちど、光島氏の帰国報告として本誌コピーに目を通しており、実現性のあるものは「今後の研究課題としよう」程度の話し合いですませ、特に反応はなかったと伝えられている。

光島氏が頂点強化に、実業団依存も止むを得ないとしたニュアンスを盛りこんでいる点に、7氏が言及している。

積極的に「そうすべきだ」というのは高田恒久氏（東京）一人、あとは「女子の例をみても自然にその時期がくる」（植田氏）、「実業団（企業側）の姿勢がそこまで行ってはいないだろう」（一OB）、「カンパニー・アマは日本のスポーツ界ではやむを得ぬが、現時点でハンドボールが企業にそれほどメリットがあるとは思えない」（千葉・片岡勝氏）「当分の間は参加するのが唯一の意義、背伸びする手はない」（星野氏）、「他のスポーツ界のように実業団勢力が張り出せば協会の運営感覚を全面的に変えなければダメ。その決断はもう少し先でよい」（SK生）と消極的な反応である。

高田氏は、学生リーグの低調から説きはじめ、「現役学生で全日本に加えられるのは、せいぜい一人か二人」と手きびしく「実業団一色が当然の姿だ」とまでいう。そして「少々無理な論拠はあるが、光島提言の80％を支持。日本協会執行部の英断を期待する」と結んでいる。

なお、田中氏の望む「投稿に対しては、つとめて日本協会側の意向を併載するように」という意見は編集の参考にさせていただく。〔今号は「投書欄・明日への提言」を休載〕

〝高体連〟〝25周年〟迎える

全国高体連ハンドボール部は今年で創立25周年を迎えるが、全日本高校選手権の競技前夜・8月1日午後6時から北九州市の千草ホテルで、祝賀式典を行う。

記念事業としては、記念誌刊行のほか、長内和夫(青森)氏ら全国28都府県の功労者50名、協賛者2社を表彰、また、選手権に10回以上出場した次の13校も表彰する。

(男子) 湯沢(秋田)、麻生(茨城)中大付(東京)、加納(岐阜)、小倉工（福岡）

(女子) 花巻南(岩手)、深谷女（埼玉）、桜水商（東京）、小諸商（長野）、小松市女(石川)、有磯(富山)、市邨学園（名女商・愛知）山陽女（広島）

国体縮少化に進む

日本協会は、7月の月例常務理事会で、今後の国体のありかたについて話し合い、日本体協の打ち出している適正化、縮少化の構想を原則的に了解した。

ハンドボールの場合、5種別（少年男女、成年男女、教員・明年以降に実施）のうち、いくつかの種別を晴雨にかかわらず体育館で行うことがあり、その施設も40m×20m（国際規格）ではない、傷害保険参加料は選手に一部負担させる、などが示されている。

東京重機、ついに優勝はたす

全日本女子実業団　日本ビクター、得失点差で及ばず　立石は3位

第15回全日本女子実業団選手権は7月3日から7日まで盛岡市の岩手県営体育館に、国内最上位8チームが参加して行われた。予想どおり決勝リーグは激しい星のつぶし合いとなり、各チームとも2勝をマークできず、東京重機工業（東京）がチャンピオンチーム・日本ビクター（茨城）らを僅差でかわし宿願の初優勝を飾った。同チームは最近5年連続2位に留っていたもの。この大会で、東京のチームが優勝したのは第4回（昭38）のレナウン工業以来11年ぶり。

旧大洋デパート勢で固めた立石電機（熊本）は、主力が昨秋の千葉国体から実戦に遠ざかっていたハンデがひびき3位。

また、強豪の多党化へ躍進が期待された日立栃木は6位、ブラザー工業（愛知）は8位と低調に終った。

なお、最優秀選手は、得点王とともに古佐原ひろ子（東京重機工業）選手が掌中にした。

重機、立石と引き分ける

◇予選リーグ・A組

大崎電気（埼玉）10（6－2, 4－2）4 ブラザー工業（愛知）

東京重機（東京）11（4－4, 7－7）11 立石電機（熊本）

引き分け

【立石】	得
森山（GK）	0
和田（GK）	0
篠田（FP）	1
山下	1
加子崎	1
島田	2
蔵田	6
植原	0
石井	0
矢田	0
紀野	0

（審・佐々木・森）

【重機】	得
三紙（GK）	0
拓植（GK）	0
古佐原（FP）	3
市川	3
菊地	1
折口	2
村上	2
渡辺	0
町田	0
波多腰	0
杉山	0
田中	0

11（1）7MT（4）11

立石電機 11（6－6, 5－4）10 ブラザー工業

東京重機 16（5－0, 11－1）1 大崎電気

立石電機 12（6－4, 6－4）8 大崎電気

東京重機 18（8－2, 10－1）3 ブラザー工業

【順位】①東京重機2勝1分（得失点差30）②立石電機2勝1分（5）＝以上決勝リーグへ③大崎電気1勝2敗④ブラザー工業3敗

○…伯仲の4者が並び各試合が優勝争いへつながるとみられた。

はたして、緒戦でダークホースに目されていたブラザーが、大崎の好守備に敗退する波乱の幕あけとなり、重機×立石も、予想どおりの好試合になった。

両チームも固さののぞく立ちあがりで15分まで1－1。そのあと立石は島田、7MT（蔵田）で先行したのだが、重機も同じような得点経過で追いあげ、互角の戦況がつづいた。

後半、重機は村上、菊地、市川らのゴールで10分7－6とリードを奪ったが、ディフェンスが雑で7MTをつづけさまにとられ15分8－8と均衡した。

このあとは重機が押し気味に進めたのだが、立石も粘り20分10－10。重機は21分古佐原が決めてあるいは逃げ切りなるか、と思われたが、立石は残り1分40秒島田が同点シュート、引き分けた。

10たび同点、つねに1点差という息づまるような試合だった。

○…このあと重機が2試合を固くモノにしたのに比べ、立石はブラザーに粘られ苦戦を演じた。

後半2分6－7とリードを許した立石は、そのあと連続4ゴールで15分10－7と優位に立ったのだがブラザーは17分佐々木のゴールを口火に宮崎、国府田でタイとした。

しかし、立石はタイムアップ直前の7MTを蔵田が決め、辛くも逃げこんだ。ブラザーはエース・鳥居（世界選手権代表）の欠場（腰痛）がひびき1勝もあげられなかった。大崎は緒戦を飾りながらそれ以後は攻守のバランスが崩れた。

日本ビクター危気なし

◇同B組

日本ビクター（茨城）18（10－1, 8－3）4 日立栃木（栃木）

田村紡（三重）14（6－5, 8－4）9 東北ムネカタ（福島）

日本ビクター 15（6－3, 9－1）4 東北ムネカタ

田村紡 12（7－0, 5－2）2 日立栃木

日立栃木 8（4－2, 4－5）7 東北ムネカタ

日本ビクター 9（6－3, 3－3）6 田村紡

【順位】①日本ビクター3戦全勝②田村紡2勝1敗＝以上決勝リーグへ③日立栃木1勝2敗④東北ムネカタ3敗

○…ビクターがやはり安定した試合ぶりで、危気なく3勝を積みあげた。

復調を待たれる日立との第1戦は立ちあがりから一方的に押しまくり、額賀が5本の7MTを決めたのをはじめ、全員がムラなくポイント、第2戦はムネカタに序盤こそ食い下られたが、後半になると速攻、セットとも冴え連続9ゴールという完ぺきな攻守をみせた。

注目の田村紡戦も、立ちあがり鈴木に2ゴールを奪われたが、10分すぎから谷沢、蓮見、阿部、池田らの活躍であっさり主導権を奪いかえし、後半9分には9－3と差を拡げた。

田村紡は、最後まで試合を捨てず松下、鈴木らのロングで追いあげたが及ばなかった。

○…注目の日立は、得意の走りをのぞかせたものの、シュート力に弱さがありビクター戦、田村紡戦とも勝機はなかった。

ムネカタ戦も10分に4－0と開く好調な出足を見せながら、そのあともたつき、後半10分には6－5と追いこまれて、どうにか逃げ切ったものの危かった。

ムネカタは、田村紡戦で後半10分まで五分にわたりあうなどチー

決勝リーグ

	重	ビ	立	田	P	勝	分	負	得	失	差
①東京重	…	△	(△)	○	4	1	2	0	30	23	7
②日本ビ	△	…	△	(○)	4	1	2	0	20	17	3
③立石電	(△)	△	…	●	2	0	2	1	27	31	-4
④田村紡	●	(●)	○	…	2	1	0	2	27	33	-6

5～8位決定リーグ

	大	日	ム	ブ	P	勝	分	負	得	失
⑤大崎電	…	○	○	(○)	6	3	0	0	25	13
⑥日　立	●	…	(○)	○	4	2	0	1	25	27
⑦ムネカ	●	(●)	…	△	1	0	1	2	17	20
⑧ブラザ	(●)	●	△	…	1	0	1	2	21	28

Pはポイント，（　）内は予選リーグでの結果

ムカの伸びを示したが、ディフェンス、スタミナにまだ課題があるようだ。

立石、田村に敗れ〝断念〟
重機、ビクターとも分ける

◇決勝リーグ

東京重機 15（6−4 9−4）8 田村紡

得	【重機】		【田村】	得
0	三紙	GK	久保	0
0	柘植	GK	山本	0
8	古佐原	FP	沖	0
3	市川	FP	三毛	1
0	菊地	FP	横山	4
4	折口	FP	和久井	1
0	村上	FP	金田	0
0	渡辺	FP	松下	1
0	町田	FP	鈴木	1
0	波多腰	FP	笠	0
0	杉山	FP	河田	0
0	田中	FP	林	0

（審・由利・高橋）

15（2）7MT（2）8

○……前半、田村紡は三毛の好パスから鈴木がロング、横山がポストでゴールした。

一方、重機は古佐原が判断のよい動きからパスカットしてチャンスをつかみ、市川とのコンビでそつなく得点、中盤にリードを奪った。

後半になると重機の攻撃が多彩となり15分12−6と開いて大勢を決めた。（勝山　宏）

……………歴代優勝チーム……………

①（昭35）愛知紡＝認定
② 愛　知　紡
③ 愛　知　紡
④ レナウン東京
⑤ 大　崎　電　気
⑥ 大洋デパート
⑦ 田　村　紡
⑧ 田　村　紡
⑨ 大洋デパート
⑩ 大洋デパート
⑪ 大洋デパート
⑫ 大洋デパート
⑬ 大洋デパート
⑭ 大洋デパート
⑮（昭49）東京重機工業

立石電機 7（4−5 3−2）7 日本ビクター
引き分け

得	【立石】		【日ビ】	得
0	森山	GK	渡辺	0
0	和田	GK		
0	篠田	FP	池田	3
0	山下	FP	阿部	0
1	加子崎	FP	蓮見	1
3	島田	FP	谷沢	1
2	蔵田	FP	額賀	1
0	植原	FP	滝	0
0	石井	FP	高野	0
0	平下	FP	川崎	0
0	矢田	FP	加藤	1
1	紀野	FP	穂積	0

（審・森・佐々木）

7（1）7MT（2）7

○……両チームとも鋭い動きを応酬、盛りあがりのある試合だった。ビクターは全員が強引な突っこみからポイント、立石はスカイプレーなどを織りこむ華麗な組織攻撃を見せた。

前半はビクターが、3−4から20分すぎ2点を加えて、逆に1点をリードした。

後半3分、立石が同点としたあとは、ともによい動きを見せながらも得点に結びつかず、11分ビクターが谷沢で先行したが、立石もすぐ島田がゴール、予断を許さなかった。

17分ビクターは7MT（池田）で三たび勝ちこし、立石の反撃をおさえこんだかに思えたが、立石は23分40分蔵田が右サイドから強引に射ちこんで、引き分けた。

両チームとも全精力をかけた好試合だった　（関川正道）

田村紡 13（8−5 5−4）9 立石電機

得	【田村】		【立石】	得
0	久保	GK	森山	0
0	山本	GK	和田	0
6	三毛	FP	篠田	2
2	横山	FP	島田	2
1	和久井	FP	蔵田	3
0	金田	FP	植原	0
0	沖	FP	山下	0
3	松下	FP	加子崎	0
1	鈴木	FP	紀野	2
0	笠	FP	石井	0
0	河田	FP	平下	0
0	林	FP	矢田	0

（審・佐々木・森）

13（2）7MT（2）9

○……どうしても1勝の欲しい緊張の立石、優勝争いから一歩退いて気楽な田村紡——両チームの気分の差がプレーに表れた。

立石がどことなく固いのに比べ田村は三毛を中心にボールがよくまわり、したがってプレーも多彩。三毛と松下が交互にポイントするなどして20分8−2。

立石はそのあと2本の7MTなどで3点を返し、後半の反撃に望みを残したのだが、14分まで無得点、しかも田村紡に2点を加えられ5−10と苦しくなった。大差をつけられてむしろ固さがほぐれたのか篠田、蔵田らが4ゴールして13分9−10と追いあげたのだが、あと一押し足らず、終盤再び田村のゆさぶりに得点を奪われ、大きな星を落とし、優勝を断念させられた。田村は、今大会でもっともよい試合ぶり。（勝山）

ビクター、前半のリード空し

東京重機 4（0−3 4−1）4 日本ビクター
引き分け

得	【重機】		【日ビ】	得
0	三紙	GK	渡辺	0
0	柘植	GK	鈴木	0
1	古佐原	FP	池田	3
1	市川	FP	蓮見	0
0	菊地	FP	谷沢	0
2	折口	FP	高野	1
0	村上	FP	額賀	0
0	渡辺	FP	阿部	0
0	町田	FP	滝	0
0	波多腰	FP	川崎	0
0	杉山	FP	加藤	0
0	山中	FP	穂積	0

（審・由利・高橋）

4（0）7MT（4）4

○……前日まで同率ながら得失点差になると重機が優位、ビクターは勝利が優勝への絶対条件だった。

その意気ごみはスタートからありありとみえ、強引なカットインなどで重機ディフェンスをえぐった。3分7MTでの先制機は逸したが5分池田が右45度からミドルを決め、さらに15分、21分に得た7MTも池田が射ちこんで3−0とした。

重機は、当りの強い相手ディフェンスに走りをとめられ、ほとんどチャンスがなく、18分に得た7MTにも失敗して、前半無得点という貧攻だった。

○……ところがハーフタイムをはさんで後半に入ると、ペースは一転した。重機は3分折口が速攻で初ゴールすると、がぜん動きが滑らかとなり4分市川が速攻して2−3。

ビクターはあっと云う間に1点差とされた焦りでリズムを乱し、なかなかチャンスがつかめない。

重機は14分GK三紙の好守から古佐原がみごとな速攻で同点に迫

いついた。
○……"決勝"にふさわしい緊迫感がみなぎり、ともに決定的なチャンスがなかったが、重機は21分折口が走りこんで決め、逆転に成功した。
瀬戸際に立たされたビクターは23分ようやく高野が持ちこんで4—4と追いつき、コートサイドの興奮は最高潮となり、残り2分間はいっそうスリリングな展開となったが、結局、両チームとも勝ちこし点を奪えず引き分け、東京重機が、劇的な盛りあがりのうちに初の栄冠を手にするところとなった。
（村上俊一）

東京重機　11（分）11　立石電機
日本ビクター　9—6　田村紡
（この2試合は予選リーグの記録を適用）

5位に大崎、日立は6位

◇5～8位決定リーグ

		前後半		
大崎電気	5	（2—0）（3—3）	3	東北ムネカタ
日立栃木	11	（4—2）（7—8）	10	ブラザー工業
東北ムネカタ	7	（6—2）（1—5）	7	ブラザー工業

引き分け

得	【ブ工】		【東北】	得
0	井戸田	GK	中村	0
0	山本	GK	熱海	0
1	原川	FP	後藤	1
1	宮崎	FP	遠藤	1
2	小森	FP	有賀	0
0	藤井	FP	細谷	1
3	藤浪	FP	鈴木	3
0	国府田	FP	清水	1
0	佐々木	FP	本郷	0
0	山口	FP	近内	0
0	宮平	FP	佐藤	0
0	中川	FP	郷	0

（審・勝山、加藤）

7（0）7MT（0）7

大崎電気　10（3—2）（7—4）6　日立栃木

得	【日立】		【大崎】	得
0	粂谷	GK	西村	0
0	高橋	GK	中島	0
0	鈴井	FP	岩井	4
2	晴山	FP	席定	0
0	土屋	FP	長谷川	0
3	富田川	FP	内野	1
0	田村	FP	大場	4
0	鈴木幸	FP	杉尾	0
0	藤田	FP	永吉	0
1	山井	FP	深堀	1
0	鈴木昌	FP		
0	小根沢	FP		

（審・村上、関川）

10（2）7MT（1）6

大崎電気×ブラザー工業、日立栃木×東北ムネカタの2試合は予選リーグの記録を適用
○……すでに順位的には妙味のないものだったが、各チームとも課題をかかえており、できるだけ実戦経験をつみたい、とあってなかなか面白い試合が多かった。
大崎×ムネカタは、大崎のペースで進んだ。ムネカタは3点の劣勢を後半10分からの7分間ではね返す善戦、終盤大崎は2点を加え逃げ切った。
日立×ブラザーも先行する日立をブラザーは後半になって急迫、16分8—9と予断を許さなかったが、日立は18分鈴木昌のゴールで2点差としたのが大きかった。
ムネカタ×ブラザーは、元気のないブラザーが、前半ムネカタの巧みな攻撃に主導権を握られた。
後半ようやく調子を出し15分5—6と詰め、17分鈴木郁に1点を奪われたが、19分小森、21分藤浪で追いつき、なんとか全敗だけはまぬがれた。
大崎×日立は、後半15分5—5から大崎が岩井、大場、内野らで5点を加えたのに対し、日立は21分富田川の1点だけ。ミスプレーの多少が勝負を色分けた。
下位チームと上位の差は、ひところよりせばまっているがやはりスピードと展開力には開きがみられる。

★個人表彰選手
▽最優秀選手
古佐原ひろ子（重機）
▽得点王、古佐原ひろ子　25
▽最優秀新人
紀野奈々美（立石）
▽ベストセブン　GK・三紙（重機）、FP古佐原、折口（以上重機）、池田、額賀（以上ビクター）、三毛（田村）紡蔵田（立石）

大阪、名古屋の6連勝阻む

有力選手が参加するインター・シティトーナメントとして年ごとに関心を高めている第25回5大都市体育大会ハンドボール競技（ハンドボールは第12回、男子のみ）は7月6、7日の両日大阪市の千島体育館で行われた。
6連勝を狙う名古屋は大同製鋼単独、大阪は湧永薬品勢に有永（福島ク）らを補強、昨年同よう開幕戦で顔を合せた両者がいわば決勝とみられたが。
予想どおり1点を争う激戦となり、前半終了1分前、穂積のゴールでリードした大阪は、後半開始6分間に有永、木野、高橋らが活躍、4得点して13—9、懸命に追いあげる名古屋を、終盤再び加点して突き放し22分には18—13、押し切った。
大阪は、このあとの3試合も順調に勝って全勝、43年以来6年ぶり通算4度目の優勝。

大阪市（選抜）	18	（9—8）（9—6）	14	名古屋市（大同製鋼）
横浜市（選抜）	21	（8—6）（13—3）	9	京都市（選抜）
大阪市	16	（7—4）（9—7）	11	神戸市（選抜）
名古屋市	23	（12—5）（11—6）	11	横浜市
京都市	17	（9—6）（8—8）	14	神戸市
大阪市	26	（10—6）（16—4）	10	横浜市
名古屋市	21	（7—8）（14—8）	16	神戸市
大阪市	24	（10—4）（14—4）	8	京都市
横浜市	19	（11—7）（8—9）	16	神戸市
名古屋市	33	（16—6）（17—5）	11	京都市

【順位】①大阪市4戦全勝②名古屋市3勝1敗③横浜市2勝2敗④京都市1勝3敗⑤神戸市4敗

鹿屋第一航空群が優勝

～全日本自衛隊選手権～

第6回全日本自衛隊選手権は全国16都道県から32チームが参加、6月26、27日東京・駒沢第一球技場、28、29、30日東京練馬・自衛隊体育学校体育館で開かれた。

大会はシード8チーム以外の24チームがまず予選トーナメントを行って4チームを選出、第2シードの4チームと決勝トーナメント1回戦を行い、そこで勝ちあがった4チームと前年のベスト4（第1シード）により準々決勝以降が争われる方法が採られた。

その結果、準決勝で前年優勝の第3術科学校（海・千葉）を破った鹿屋第一航空群（海・鹿児島）が、決勝で宿敵の勝田（陸・茨城）に完勝、2年ぶり2度目の優勝を飾った。海上勢の優勝は3年連続。

▼予選ラウンド・C組1回戦

第21航空群（海・千葉） 11（6－2、5－4）6 沖縄（海・沖縄）

▽同D組1回戦

富士（陸・静岡） 12（4－2、8－3）5 古河（陸・茨城）

下志津（陸・千葉） 18（10－7、8－6）13 春日井（陸・愛知）

▽同E組1回戦

施設学校（陸・茨城） 19（10－2、9－6）8 練馬通信隊（陸・東京）

朝霞（陸・東京） 不戦勝 松戸（陸・千葉）

久里浜（陸・神奈川） 14（5－5、9－5）10 神町（陸・山形）

（注）A、B組は1回戦なし

▼予選ラウンド・B組2回戦

滝ケ原（陸・静岡） 11（4－1、7－5）6 練馬武器隊（陸・東京）

中央病院X線（陸・東京） 19（8－4、11－3）7 真駒内（陸・北海道）

▽同C組2回戦

第2航空群（海・青森） 13（7－3、6－7）10 横須賀地方隊（海・神奈川）

大湊航空群（海・青森） 12（7－1、5－4）5 第21航空群

▽同D組2回戦

富士 6（4－3、2－2）5 新町（陸・群馬）

下志津 7（4－4、3－2）6 高田（陸・新潟）

▽同E組2回戦

施設学校 7（4－0、3－3）3 霞ケ浦（陸・茨城）

久里浜 16（7－3、9－6）9 朝霞

（注）A組は2回戦なし

中央病院X線など上位戦へ

▼予選ラウンド・3回戦（各組決勝戦）

▽A組

熊谷（空・埼玉） 10（4－1、6－4）5 航空生徒（空・埼玉）

▽B組

中央病院X線 20（10－2、10－4）6 滝ケ原

▽C組

第2航空群 7（3－3、4－2）5 大湊航空群

▽D組

下志津 10（5－0、5－4）4 富士

▽E組

施設学校 13（7－2、6－5）7 久里浜

（注）C、D、E組の勝者は決勝トーナメントへ

▼決勝トーナメント進出チーム決定戦（A、B組1位の対戦）

中央病院X線 3（1－1、2－1）2 熊谷

決勝トーナメント

▽1回戦

宇都宮・12特科（陸・栃木） 16（9－2、7－5）7 中央病院X線

下総教育航空群（海・千葉） 11（4－6、7－4）10 第2航空群

少年工科学校（陸・神奈川） 14（7－4、7－6）10 下志津

施設学校 20（5－3、15－4）7 相馬ケ原（陸・群馬）

○……下総×第2がもつれた。第2は関本、山形の巧技で後半7分10－7とリードしたが、そのあと追加点がとれず、後半10分からは逆に下総のペース、六ツ石、保坂の活躍で鮮やかな逆転勝ち。

少年工科×下志津は、下志津の先行で始まったが、少年工科は前半終了間ぎわから波にのり制勝。この他の2試合は順当な経過だった。

▽準々決勝

第3術科学校（海・千葉） 18（9－2、9－4）6 宇都宮12特

鹿屋第一航空群（海・鹿児島） 16（9－5、7－7）12 下総教育航空群

佐世保地方隊（海・長崎） 18（11－3、7－6）9 少年工科学校

勝田（陸・茨城） 24（11－4、13－13）17 施設学校

○……特別シードの4強がやはり今年も強かった。

好試合だったのは鹿屋×下総。結果的には、下総は相手のエース中水流一人にやられた感じ。

中水流は前半16分までに連続7点をたたき出し7－4とリード、立野の追加点で鹿屋が優位に立った。下総も後半、平野（全日本ジュニア）、保坂らで反撃したが鹿屋は余裕をもってかわした。

○……2連勝を狙う第3は立上り

横山の連続得点などであっさり先制、その後も、鈴木、末崎、奥原が好機を確実に活かして押し切った。

佐世保もスタートから優位に立ち、前半15分7－2と開いて危気なく、勝田は、手の内を知った施設学校に前半で安全圏の7点差、施設学校も後半、福井の奮斗で粘ったが及ばなかった。

第3術科の2連勝成らず

▽準決勝

鹿屋第一航空群 10（4－4, 6－5）9 第3術科学校

○……1点を追う第3はノータイムで7MTを得たが、惜しくも失敗、2連勝は成らなかった。

事実上の決勝、といわれるにふさわしい好試合で、序盤は第3がリードを奪ったが、鹿屋は15分0－3から20分3－3と一気に追いつき、その後は一進一退。

後半、鹿屋は山下の巧技でこの試合初のリード、中水流、下村、立野らの得点で20分10－6と勝利を握ったかにみえた。

しかし、第3はすばらしい粘りで21分末崎、23、24分宮本で9－10と追いあげ、館内を沸かせた。

しかし、最後につかんだ絶好機を逃し涙をのんだ。自衛隊球界の成長を物語る好内容だった。

【鹿屋】

	選手	得
GK	松岡	0
FP	下村	2
	山下	2
	松尾	0
	中水流	4
	伊藤	1
	中一	0
	立野	1
	町山	0
	埼	0
	瀬田	0

【第3】

	選手	得
GK	中蘭	0
	上田	0
FP	奥原	1
	鈴木	1
	西田	0
	平沢	0
	横山	1
	末崎	3
	桑原	0
	宮本	3

（審・安藤、藤原幸）

9（0）7MT（1）10

勝田 22（7－6, 15－6）12 佐世保地方隊

【佐世】

	選手	得
GK	鈴山	0
FP	大塚	0
	小浜	4
	佐藤	3
	山崎	0
	栗林	3
	田中	2
	徳山	0
	高東	0
	紺屋	0
	国生	0

【勝田】

	選手	得
GK	柳林	0
	栗原	0
FP	平山	3
	小松	6
	大阪間	2
	藤枝	1
	増田	3
	田山	0
	額賀	7
	高岡	0
	野高	0

（審・勝、佐野）

22（0）7MT（4）12

○……前半は動きのある展開でたがいにゆずらなかったが、後半になると勝田のセットプレーが冴え終盤は一方的な経過に終った。

先制点は佐世保が3分栗林であげたが、勝田は増田、小松らで追いあげ23分7－4とアヘッドした。

佐世保は、このあと小浜、佐藤の得点と、後半すぐ栗林で7－7と振り出しへ戻したのだが、勝田は、このあたりから額賀のポストプレーが決まり出し、10分には13－8と再び優位に立った。佐世保はディフェンスにもう一つ粘りがなく、13分11－13と反撃したものの、そのあと勝田の攻撃に連続のゴールを奪われ敗退。

鹿屋、前半で勝負決める

▽決勝

鹿屋第一航空群 22（15－5, 7－7）12 勝田

【勝田】

	選手	得
GK	柳林	0
	栗原	0
FP	平山	0
	小松	4
	大阪間	1
	藤枝	2
	増田	1
	田山	2
	額賀	1
	高岡	1
	野高	0

【鹿屋】

	選手	得
GK	松岡	0
FP	下村	2
	山下	1
	松尾	0
	中水流	9
	伊東	1
	中一	4
	立野	5
	町田	0
	埼	0
	瀬田	0

（審・佐野、勝）

22（4）7MT（1）12

○……ライバル同士。すべり出しは互角だったが、10分あたりから鹿屋の速攻が威力を発揮、意外にも一方的な試合となった。

勝田は2分小松、3分増田で幸先よいスタートを見せたが、鹿屋は立野の連続得点で間をおかずに同点、そのあと中一、中水流の活躍であっさり主導権を手にし15分8－3、20分13－4と順調に加点した。

勝田は、鹿屋のスピードにあふれた攻撃をさばききれず、後半こそ、互角に持ちこたえたものの、前半の乱れによる失点は取り返しがつかず、決勝戦にしては物足らない内容となってしまった。

鹿屋は中水流、中一、立野らの攻撃力が抜群で、特に中水流（23才、加治木工出、173cm）は3試合で22点をマーク、優勝の原動力となった。

歴代優勝チーム

①（昭44）勝田施設学校（陸）
②　防衛大学校（特別参加）
③　勝田施設学校（陸）
④　第一航空群鹿屋（海）
⑤　第三術科学校（海）
⑥　第一航空群鹿屋（海）

「独立」に悩む自衛隊連盟

選手も役員もひたむきにプレーし、大会を進めている。

今年から優勝チーム（男子）に「防衛庁長官杯」が渡されることになった。バレーボール、空手につづく〝名誉〟だとか。

トップチームのレベルもあがっている。ベスト8以降の内容はなかなかのもの。

すべて順調な自衛隊球界だが一つだけ課題がある。

全日本自衛隊連盟の〝完全独立〟を望む声が日本協会内に出はじめていることだ。

現在は、独立した加盟団体である一方、実業団の大会にも出場が認められ、実連も全国実業団トーナメントのうち二つの座を自衛隊のために空けている。

それなら、全日本総合への全日本自衛隊推せんの枠を返上したらどうか、との声。自衛隊チームのために全国トーナメント出場を断念させられる実業団が出てきたらどうする、との〝心配〟。

ところが、自衛隊側の一般クラブや実業団との交流希望は想像以上だ。

全日本自衛隊連盟があるために実連系の大会へ出られなくなるなら、連盟を改組し、全日本自衛隊選手権は、隊内事業として自主運営したら、という意見まである。〝民間〟レベルに匹敵するチームスポーツはハンドボールだけ、という自信を伸ばしたい気持ちも強い。

しかし、隊内（防衛庁など）から経済的援助がまったくないだけに、選手権の自主運営は、かなりの困難が伴いそうだ。

「すべてを現状のままで。」と自衛隊連・富永副理事長は苦しい表情でいうのだが……。（Z）

女子は朝霞ワック

日本協会長杯を争うオープン種目の女子は、4回目を迎え例年どおりワックやナースによる3チーム（いずれも東京）が参加、リーグ戦で行われた。

その結果、熊本市高の主将をつとめていた金水、大分東高のGKとして活躍していた十時などをもつ朝霞ワックが初優勝を遂げた。

朝霞ワック 2（1－0, 1－1）1 看護学生
看護学生 6（2－2, 4－3）5 中央病院
朝霞ワック 6（3－3, 3－2）5 中央病院

（朝霞ワック・優勝メンバー）GK堀内、安藤、FP金水、乾、十時、木下美、中谷、谷口、木下信、木庭、鈴木

盛夏彩る行事近づく ①

大阪イーグルス、4連勝目指す

第17回全日本教職員選手権

◇8月10～13日◇四日市高グラウンド

男子31、女子（オープン）4チームが参加して行われる。

日体（関東）、中京（東海）、大阪体大（関西）など、いわゆる教員養成大学系のレベルが高い斯界だけにこの選手権の重味も、他のスポーツよりずっとある。

特に、各大学とも部員が多いため現役時代、第一線で活躍する機会に恵まれなかった者が、卒業後、この大会でめざましい働きを見せるケースも多く、興味のある大会だ。

一本勝負の男子は、4連勝を狙う大阪イーグルスを筆頭にシードされたスワロー兵庫、愛知教員、茨城教員の各チームが今年も優勝争いのトップグループとみられる。

イーグルスは、早川、GK本田の両オリンピック代表を攻守の要に置いて、福井稔、高橋、池本、河原崎でバランスが採れている。

試合運びの巧さも、伝統的なものがあり、順調に勝ちあがるだろう。

イーグルスと火花を散らすスワロー兵庫。最近3年つづけて決勝で敗れているだけに、激しい斗志を燃やしての登場。

松岡、中村、黒田を主力として畑、井上、木野らの老巧なかけ引きをからませた攻撃力は、いぜん劣えていず、GK上野も固い。問題は準決勝に予想される茨城教員戦だ。

茨城は国体（10月）を控えて強化につとめており、元全日本のGK大村細谷、塚田、大川、立原、池田らに中村、福永の大体大コンビを加え固まっている。スワローが一本調子に落ちこむと、波乱がおきそうだ。

愛知教員の意欲も買える。メンバーの若返りに着々と手を打ち「目標はイーグルス」（須賀マネ）と云い切る。松浦、斎藤、長縄、飼沼、川口ら多彩な攻撃力が看板で韓国遠征、スタジオン（デンマーク）戦など意欲的な活動をつづけている。

4強を追うのは東京教員、埼玉フェニックス（旧名・埼玉教員ク）三重教員団、福岡教員、栃木教員岐阜教員、静岡教員団あたりではなかろうか。

このなかでは北井、高戸河住、結城、GK高橋らベテラン揃いの埼玉が、新しいチーム名どおり不死鳥のような立ちなおりをみせるか、神谷、坂本（ともに大阪体大）、夏目（中京大）ら有力新人を加えた地元・三重がどこまで戦うか注目される。

この大会は「一県一チーム」が通り相場だったが、大阪教員クがA、Bチームを送りこんだほかコンドルズ（茨城）、ATF（愛知）愛教ク（愛知）など〃多党化〃が目立つようになった。教員界の競技人口から推しても、当然の成りゆきで嬉しい傾向だ。

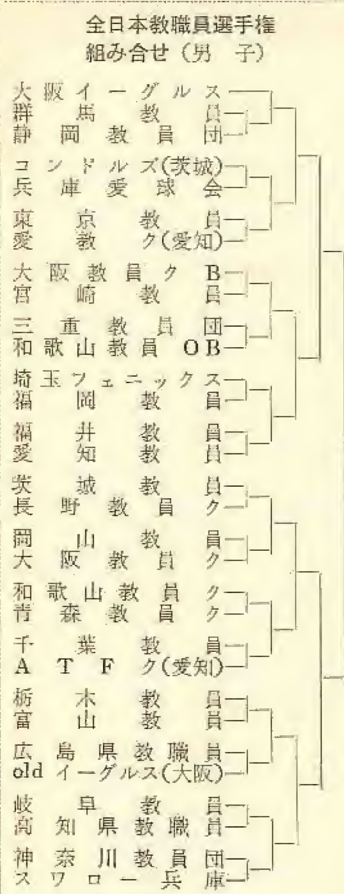
オールドイーグルス（大阪）、和歌山教員OB、兵庫愛球会などOBの〃結党〃もさかんになっているが、近い将来、思い切って年令別にしてみたらどうだろう。

3ランク（20代、30代、40代以上）は、当分むりとしても、シニアクラス（35才以上）の併設は、すぐにも可能な感じだ。

2回目の女子は、岩手、東京、愛知、大阪のリーグ戦。去年1位の大阪が強そう、というもっぱらの評判である。

女子リーグ日程

▽第1日（11日）愛知×大阪、東京×岩手▽第2日（12日）大阪×岩手、愛知×東京▽第3日（13日）東京×大阪、岩手×愛知



3年目迎え「中学球界」定着

第3回 全国中学生大会

◇8月18、19日◇奈良県（天理市・県立添上高グランド、奈良市・中央体育館）

早いもので、もう3年の球史を刻むわけだが今年は前2回が行われた愛知県をはなれて奈良での開催。全国9ブロックの予選勝者と地元代表の男女各10チームが参加する。

全国的に「中学球界」もどうやら安定してきたようで、本誌に伝えられる中学大会記録も、にわかに増えている。それだけに、本大会へ駒を進めるのは、容易ではなくかなり強化にはげまないと、桧舞台を踏む夢を果たせない。

発足時からの課題である参加校数の拡大を、具体的に検討する時期に来たと思う。

予選（県大会）などで目につくのは、混成チームや中学クラブが増加していること。

東海男子代表となった桜明ク（愛知）は名古屋市立桜田中と同朋豊中が連合したもの。

「中学球界」をとりまく諸情勢は今後なお波乱ぶくみとみる人は多いが、グランド上の若い熱戦はいっそう内容豊か、話題豊かになることはまちがいない。

盛夏彩る行事近づく ②

指導者層の拡充に大きな期待

全国教員養成大学研修会

◇8月29日～9月1日◇東京・青少年総合センター◇文部省後援

斯界の課題の一つにあげられている指導者の養成は、これまで教員養成大学でハンドボール部に籍をおいた部員（選手）たちによって大半が補なわれていたが、どうしても競技者活動が中心となり、指導者としての技術を身につけることはあとまわしにされた。

この研修会の開催は、そうした欠点をカバーすることにもなるし日本協会の考えかたを、将来の指導者に知ってもらうためにも絶好のものである。

日本協会は、今春早々、運営委員会を編成し、準備にあたっているが、受講希望者は、義務教育指導志望者を優先させるとしたにもかかわらず、定員（160名）を上廻る申しこみがあり、関係者を喜ばせたりホッとさせたりしている。

研修会開催にこぎつけるまでには、いろいろな苦労があったようだ。

企画そのものも、日本協会（普及部）と全日本教職員連盟が、別々に進めていたようで、昨年秋、日本協会・荒川清美理事長と全日本教職員連盟・的場益雄副会長が話し合い、文部省への後援依頼などで、窓口を日本協会に一本化することにまとまった。

日本協会が、5年ほど前に計画した時は、全国教育大学トーナメントといった競技会形式のものを考えていたようだが、検討段階で指導研修会的なカラーが強まり、今回のような形式で発表となったのは歓迎されていい。

研修内容は、すでに本誌(120号)でも紹介したが、バラエティにとんだ講座を用意してある。

研修会参加校名簿
（人数は予定）

北海道教大旭川	10
山形大	11
岩手大	10
福島大	10
宮城教大	9
群馬大	7
東京学芸大	10
東京教大	10
静岡大	10
愛知教大	10
三重大	9
京都教大	10
大阪教大	10
広島大	11
山口大	8
愛媛大	1
福岡教大	9
熊本大	7
琉球大	8

初の"全国"大会に意気さかん

第1回 全国高専大会

◇8月28、29日◇新潟・柏崎工高球技場ほか、

大学リーグにも、高校大会にも年令の関係で"一校単位"では参加することができず、わずかに、一般大会を情熱のはけ口にしていた「高専」にようやく、全国大会という桧舞台がしつらえられた。

これまでも、何回か話題になりながら、高専ハンドボール界の実態をつかめず実現にとまどっていたのだが、今春、日本協会・渡辺（五）理事が全国アンケートした結果、30校をこす高専にハンドボール部が置かれ、ほとんどが「全国大会を希望」していることが判った。

これで、一気に日本協会内にも"高専大会"への機運がもりあがり本決りになった。

5年前、日本協会が非公式調査した時のデーターでは、ハンドボール部を持つ高専は17。このうち全国大会を望んだものは9校だけであったのを考えれば、高専側の姿勢にも、大きな"成長"があった、といってよいだろう。

高専（工専）という制度が設けられたのは、昭和37年度で、すぐにハンドボール部を発足させたとしても、まだ12年程度の球史であり、ほとんどは5～7年のキャリアで実力のほどは、まったく不明だが、地方学生リーグの一部校と互角にわたりあう高専もあると伝えられ、上位戦に進めば、かなりの内容を示すのではなかろうか。参加校の熱意も興味深い。

大会は、トーナメントで行われるが、本誌〆切り（7月24日）までに主管の新潟協会あてエントリーしているのは8校だが、最終的には15校近くになるみこみ。

なお、日本ハンドボール史のうえでは、第2次大戦直後の昭和21～23年ごろ「高専大会」が行われている記録がある。これは、大学高等部、専門学校などの大会で、大学リーグに出場するかたわらでこのような大会が開かれていたものらしい。

新たな歴史へ力強い第一歩を
〜全日本高校選手権展望〜

嶋田新太郎
（日本協会常務理事
全国高体連副部長）

全国高体連ハンドボール部創立25周年を祝う第25回全日本高校選手権（インター・ハイスクール）は8月2日から7日までの6日間、北九州市・桃園競技場（6、7日は北九州市立総合体育館）に全国の代表男女98校が参加、高松宮賜杯をめざして、熱戦をくりひろげる。

参加校は、47都道府県の激しい予選を勝ち抜いた各校と前年度優勝校、それに地元（福岡）第2代表の男女それぞれ49校で、日本ハンドボール界の明日をになう若く新しい力の激突に寄せられる期待は大きなものがある。

なお、男女優勝校は、8月22、24の両日、韓国釜山市で開かれる第7回日韓高校交歓スポーツ大会（ハンドボールは男子第9回、女子第2回）の日本代表校となる。

昭和25年8月、盛夏の大阪・藤井寺球技場に男子53(31都道府県)女子32（21都道府県）校を集めて開いた第1回大会から25年の歴史が流れた。

5年刻みの記念大会ごとにいちぢるしい成長のあとを示す高校界全都道府県参加の宿願は、男子は3年前、女子は昨年すでに成し遂げられている。

四分の一世紀を経て、これからは発展期、大発展期である。

今年の予選参加校数は、日本協会調べで一四三〇校、もちろん史上最高である。

このなかから選び抜かれた98校どこも弱かろうハズがない。しかも古参、新進の区別がなくなり、地域差も解消されている、とあっては、例年以上に優勝の行方を占うのは難しい。

初出場校は男10、女7校。岐阜が男女初のほか、ことしは大阪、兵庫、京都、熊本(女)、岡山(女)など伝統地区、激戦地域から初顔が登場してくることは興味深い。

一方、伝統校では、男子は新居浜工（愛媛）の21回出場を筆頭に四日市工（三重）16回、天城（岡山）、塩山商（山梨）の15回、添上（奈良）の14回などがつづく。

女子では涌谷（宮城）の22回が抜群、水海道二（茨城）18回、徳山（山口）17回、秋田和洋女（秋田）16回など。どれもたいした記録だ。

連続出場では秋田和洋女が14年連続と記録を伸ばし、小諸商（女・長野）が13年、男子では中大付（東京）がついに10年連続に達した。男女出場は大分東（大分）が2年連続のほかは添上（奈良）だけ。

記録的なものでは、幡多農（男・高知）の24年ぶり出場がある。つまり、第1回大会以来といろわけだ。

予選の主な敗退校では9年連続を狙っていた昭和学院(女・千葉)8年連続出場を目指していた清水商（男・静岡）のほか、男子では小杉（富山）、羽水（福井）、三木松(香川)、女子では山梨（山梨）、加納（岐阜）、真備（岡山）、熊本市女（熊本）など。

男子展望

名城大付追う中大付

Aゾーンでは名城大付（愛知、推せん）の2連覇成るか、が焦点左腕をずらりと揃えた昨年のメンバーはかなり入れ替っているが伝統的な激戦地・愛知でもまれているだけに今年も強そう。

行く手をふさぐ有力一番手は関東1位の中大付(東京)。昨年準々決勝で演じた激戦の再現となろうこのほか仙台育英（宮城）も侮れない。

中大付は、緒戦の新居浜工（愛媛）が難関。四国1位の新居浜工はここを通れば、一気に名城大付も狙える。

修道（広島）のまとまり、久留米工（福岡）の進境も油断できぬ久留米工は選抜、選手権と九州2冠を飾っておりダークホース。

湯沢、氷見らで混戦か

Bゾーンは混戦。いちおう東北1位・湯沢（秋田）と北信越1位氷見（富山）が中心だが、湯沢はすぐ麻生（茨城）×大分東(大分)の勝者にぶつかるし、順当なら湯沢、氷見は3回戦で顔を合せる。

注目されるのは桃山学院(大阪)4月の一次予選では1回戦で敗れまったくノーマークだったが、あっという間に、名門地区の代表となった。この勢い、見逃せまい。

上田(長野)、鹿児島工(鹿児島)八幡工（滋賀）も上位を狙う力は充分である。

呼び声高い岩国工

中堅クラスの集っているCゾーンでは、中国1位の岩国工(山口)の呼び声が高い。

これにからむのは、着実に力をつけている聖光学院工(福島)、大石田（山形）の東北勢、熊本市商（熊本）、静岡農（静岡）、慶応（神奈川）、小松工(石川）あたりではなかろうか。

知念（沖縄）の試合ぶりも注目してよいものがある。

小倉西に地元の期待

Dゾーンでは一昨年3位、昨年2位と確実にステップしている地元・小倉西（福岡）が最有力。

しかし、再度にわたって名城大付を破っている東海1位・名南工（愛知）や添上(奈良)、報徳学園(兵庫)坂出工(香川)など予断を許さず、特に名南工は、自信をもっての登場だけに興味ある存在だ。

鹿町工(長崎)、塩山商（山梨）も軽視はできず、鹿町工は、九州選抜で小倉西と引き分けの実績がある。

女子展望

小松市女、高蔵、熊本女商並ぶ

Aゾーン、トップシードの小松市女（石川）は北陸3県、北信越高校に優勝、2連覇へまず順調な仕上りとみてよい。

しかし、昨年ほどの鋭さを発揮できるか、となると必しも安泰ではなく、特に東海1位・高蔵（愛知）との対戦は大きなヤマ。

ここを仮に勝ち抜いても3回戦では九州選手権優勝の熊本女商（熊本）との対戦が予想され、楽な道ではない。

見方をかえれば、この3校の激突から勝ちあがったものが、優勝最短距離であろう。

このほか伝統を誇る深谷女（埼玉）、三本松（香川）、小諸商（長野）地元・筑紫女（福岡）なども安定しており、三本松は特に不気味。

大分東、新居浜商が中心

Bゾーンは大分東(大分)、新居浜商（愛媛）をめぐるつばぜり合い。両校に代って上位へ進むとすれば武生商(福井)、青森西(青森)、神戸商(兵庫)、明倫(神奈川)、明徳商（京都）あたりではなかろうか。このほかのチームはややスケールが小さいようだがインター・ハイのよさは、そうしたチームが桧舞台で一気に波へのることだ。

優勝候補ひしめく

Cゾーンは、関東1位・水海道二(茨城)、中国1位・広島一女商(広島)、北海道1位・函館女商とチャンピオンが並ぶほか、東北2位・涌谷(宮城)、大谷(大阪)、神埼農（佐賀）など強豪が揃う。ここから優勝校がでるのではないかという声もあるほど。

津女(三重)、小禄(沖縄)も攻守のバランスがとれており、有力チームにとってはうるさいタイプだ。

ダークホースの和洋女ら

Dゾーンは東北1位・和洋女（秋田）を、徳山(山口)、清水商（静岡）、小杉（富山）、古賀(福岡)、佐世保北（長崎）、小平（東京）が迫る。

徳山は相変らず力、技を巧みに使い分けるし、小杉は北信越で小松市女に、清水商は東海で高蔵に肉はく全国Aクラスの実力をもっている。地元・古賀も強化の実をあげていると云われ、自信満々だ。池田（徳島）は四国2位。ダークホースの並んだパートである。

ベストエイトを占う

さて、ベストエイトと優勝候補群を思い切って絞ってみよう。

まず、男子は名城大付・仙台育英×中大付・新居浜工、上田×湯沢・麻生・氷見・大分東、聖光学院工・熊本市商×大石田・岩国工名南工×小倉西が準々決勝の顔ぶれ。慧星は久留米工。

女子は、小松市女・高蔵・熊本女商の勝者が三本松らを制することになりそうで、準決勝の相手は大分東×新居浜市商の勝者か。

残りは涌谷・広島一女商×大谷・水海道二、和洋女・古賀×徳山・小杉・清水商・佐世保商あたりだ。

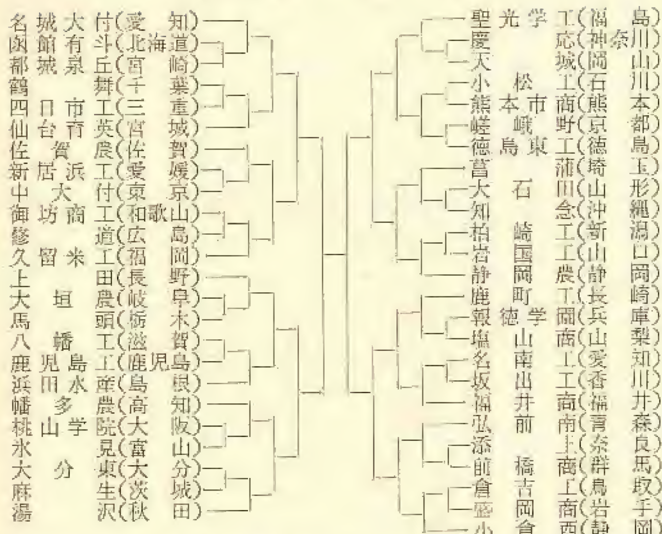
今大会は、男女とも準決勝から体育館を使用するが、ともあれ炎暑下の6日間、コンディショニング、ペース配分も大きなポイントになってくる。

また、2年前に始めた全国中学生大会の成果が、そろそろ芽生えてくるのではないか、という期待もある。

オリンピック定着で、若い選手たちの意気ごみもさかんな最近だけに、高校ハンドボールの新しい歴史を踏み出すにふさわしい内容を待望したい。また、充分それがかなえられるであろう。（了）

第25回全日本高校選手権組み合せ

○…… 男　子 ……○



・男子決勝は８月７日午後３時30分からＮＨＫ・ＴＶ（総合）で放映（中継録画）の予定

○…… 女　子 ……○



北海道高校選手権

函館勢（男・有斗 女・女商）強味見せる

第25回北海道（全道）高校選手権は、6月23、24日の両日室蘭栄高体育館を主会場にして男子12、女子7校が参加、行われた。

男子は地域差が解消、激戦となったが、函館有斗と函館大谷が抜け出し、有斗が辛勝、2年ぶり3度目の優勝を決めた。

女子は、準決勝で前年1位の室蘭商を破った函館女商が、決勝でも登別を寄せつけず2年ぶりの優勝。

▽男子決勝
函館有斗 7——6 函館大谷

▽女子決勝
函館女商 12——1 登別

（注）このほかの試合記録は本誌26頁「全日本高校選手権・各県予選記録・北海道」の項参照。

東北高校選手権

秋田和洋女5連勝遂ぐ 男子は湯沢

第27回東北高校選手権は6月28日から3日間、県立青森西高で東北6県から男子12、女子12校が参加して行なわれた。

男子は準決勝で前年度優勝の聖光学院工業（福島）を延長の末降した大石田（山形）が決勝でも実力ナンバーワンの湯沢（秋田）を苦しめる健斗をみせた。湯沢は、エース由利の活躍などで大石田を振り切り3年ぶり4度目の優勝を飾った。

女子は、5連勝をかける秋田和洋（秋田）と前年度インターハイベスト4の涌谷（宮城）が注目された。準決勝で涌谷は、須賀川長沼（福島）に前半リードされながらもよく粘り、逆転した。長沼の健闘が目立つ一戦だった。決勝は予想通り秋田和洋と涌谷の対戦となったが、延長にもつれこむ接戦の末、馬力にまさる秋田和洋が5年連続9度目の優勝を決めた。秋田の男女制覇は3年ぶり4度目。

▽男子—回戦
宮城水産(宮) 12—10 秋田南(秋)
湯　沢(秋) 14—6 盛岡商(岩)
盛岡　一(岩) 12—10 三本木(青)
学校法人石川(福) 17—11 東根工(山)

▽同準々決勝
聖光学院工(福島) 12（6—5, 6—3）8 宮城水産
湯　沢 19（11—2, 8—9）11 仙台育英(宮城)
大石田(山形) 15（7—3, 8—9）12 盛岡一
学校法人石川 13（8—9, 5—2）11 弘前南(青森)

▽同準決勝
大石田 16（7—4, 7—10 : 2—1, 0—0）15 聖光学院工
湯　沢 21（12—4, 9—12）16 学校法人石川

▽同決勝
湯　沢 14（9—6, 5—6）12 大石田

▽女子1回戦
石　川(福) 10—5 米沢女(山)
大曲農(秋) 20—4 野辺地(青)
盛岡二(岩) 8—4 塩釜女(宮)
須賀川長沼(福) 16—3 竹田女(山)

▽同準々決勝
秋田和洋女(秋田) 6（1—1, 5—2）3 石　川
涌　谷(宮城) 15（6—1, 9—4）5 大曲農
青森西(青森) 9（5—2, 4—4）6 盛岡二
須賀川長沼 6（3—2, 3—0）2 花巻北(岩手)

▽同準決勝
秋田和洋女 10（6—3, 4—1）4 青森西
涌　谷 6（5—2, 1—3）5 須賀川長沼

▽同決勝
秋田和洋女 11（5—3, 3—5 : 2—1, 1—1）10 涌　谷

四国代表に香川勢

全国中学生大会予選

第3回全国中学生大会（8月・奈良）の四国予選会は6月30日高知西高体育館で行われた。

参加したのは男子2県、女子1県とさびしく、香川勢が強味を示して出場権を得た。

▽男子代表決定戦
香川中(香川) 10（4—0, 6—0）土佐中(高知)

▽女子は香東中（香川）の認定優勝

新居浜工と新居浜商

四国高校選手権速報

第23回四国高校選手権は7月21、22日松山で行われ、男子決勝戦の新居浜工（愛媛）×坂出工（香川）は、新居浜工が前後半とも僅差のリードを保って制勝。

女子決勝戦・新居浜商（愛媛）×池田（徳島）は、新居浜商が完勝した。

▽男子決勝
新居浜工(愛媛) 10（6—5, 4—3）8 坂出工(香川)

▽女子決勝
新居浜商(愛媛) 10（3—1, 7—3）4 池田(徳島)

また第24回九州高校選手権は7月23日に終わり、男子は久留米工（福岡）女子は熊本女商がそれぞれ初優勝。



北信越高校選手権

氷見と小松市女が勝つ

第10回北信越高校選手権は6月22、23の両日、福井・羽水高球技場に男女各10校が参加して行われた。

男子は、準決勝で高岡商(富山)が前年1位の上田(長野)に逆転勝ち、氷見(富山)とともに決勝へ進み、同県勢で優勝を争ったが氷見が前半から優位に立ち快勝、9年ぶり2度目の栄冠を手にした。

女子は、全日本高校2連勝をめざす小松市女(石川)が、準決勝で小杉(富山)に苦しんだがもちこたえ決勝へ進出、武生商(福井)に大勝して4年連続5度目の優勝を飾った。

▽男子1回戦(2試合)
屋代(長野) 18（7－3, 11－5）8 柏崎工(新潟)
高岡商(富山) 19（8－2, 11－2）4 柏崎(新潟)
▽同準々決勝
泉ケ丘(石川) 17（8－8, 9－8）16 福井商(福井)
上田(長野) 20（10－4, 10－5）9 北陸(福井)
氷見(富山) 17（7－7, 10－1）8 屋代
高岡商 15（6－7, 9－4）11 小松工(石川)
▽同準決勝
氷見 18（6－5, 12－8）13 泉ケ丘
高岡商 11（6－3, 5－7）10 上田
▽同決勝
氷見 17（9－5, 8－4）9 高岡商
▽女子1回戦(2試合)
巻(新潟) 2（1－0, 1－1）1 高岡女(富山)
美須々丘(長野) 8（2－3, 6－2）5 江南(新潟)
▽同準々決勝
武生商(福井) 11（7－1, 4－1）2 巻

東海高校選手権

男子は名南工が初の栄冠

第21回東海高校選手権は6月22・23の両日名古屋・松陰高に男女各8チームを集めて行われた。

男子は予想どおり愛知勢による決勝となり、名南工が、前年の全国チャンピオン・名城大附属に逆転勝ちして初優勝した。

女子も愛知勢が伝統の強味を誇り代表2校が決勝へ進出、高蔵が姉妹校の市邨学園を接戦の末退け2年ぶり2度目の優勝を遂げた。

▽男子準々決勝
名南工(愛知) 9（6－3, 3－5）8 富士(静岡)
大垣農(岐阜) 23（11－4, 12－6）10 高田(三重)

小諸商(長野) 13（8－1, 5－1）2 北陸大谷(石川)
小杉(富山) 14（5－0, 9－4）4 高志(福井)
小松市女(石川) 11（4－1, 7－3）4 美須々ケ丘
▽同準決勝
武生商 13（2－0, 0－1 : 5－6, 6－5）12 小諸商
小松市女 6（4－4, 2－1）5 小杉
▽同決勝
小松市女 14（5－2, 9－1）3 武生商

静岡農(静岡) 10（2－1, 1－1 : 3－4, 4－3）9 市岐阜商(岐阜)
名城大附(愛知) 11（6－4, 5－1）5 四日市工(三重)
▽同準決勝
名南工 11（3－2, 8－3）5 大垣農
名城大附 12（8－3, 4－2）5 静岡農
▽同3位決定戦
大垣農 10（5－4, 5－2）6 静岡農
▽同準決勝
名南工 11（3－2, 8－3）5 大垣農

名城大附 12（8－3, 4－2）5 静岡農
▽同3位決定戦
大垣農 10（5－4, 5－2）6 静岡農
▽同決勝
名南工 6（4－2, 2－3）5 名城大附
▽女子準々決勝
高蔵(愛知) 7（3－0, 4－1）1 加納(岐阜)
清水商(静岡) 11（7－2, 4－1）3 四日市(三重)
城北(静岡) 4（2－0, 2－1）1 岐阜南(岐阜)
市邨学園(愛知) 10（6－1, 4－0）1 津女(三重)
▽同準決勝
高蔵 8（7－2, 1－5）7 清水商
市邨学園 8（6－2, 2－2）4 城北
▽同3位決定戦
城北 7（0－0, 1－0 : 4－1, 2－5）6 清水商
▽同決勝
高蔵 7（4－3, 3－2）5 市邨学園

小袋是郎氏を韓国へ派遣

日本協会は、8月22日から韓国釜山市で行われることとしの日韓高校交流への派遣役員として、日本協会評議員小袋是郎氏(全国高体連ハンドボール部副部長)を決めた。

なお、韓国高校選手権の優勝は男子が東亜(釜山)、女子が鳳水女商(ソウル)。

リポート

高校優秀ハンドボール選手の分析

全国高体連ハンドボール部

全国高等学校体育連盟ハンドボール部は、毎年インターハイのあとで優秀選手として男女それぞれ十五名ずつを選出、表彰をしてきた。大会前日の監督主将会議において各チームから優秀選手候補をあげてもらい、事務局で一覧表を作成、選考委員に渡し、委員はこれを頼りに試合観察を行ない、敗退チームを中心に連日選考会をくり返し、大会決勝終了後に絞られたワクの中から優秀選手を話合いによって決定していくというものである。したがって、大会前の優秀選手候補は約一〇〇名を超えるが、逐次候補者を絞り、最終選考会では約三〇名の男女それぞれの候補者が残る仕組みである。もちろん名簿以外でも選考委員の目にとまった選手は候補者に加えられる。選考委員会は、全国高体連ハンドボール部の常任委員十六名とインターハイ審判員三十二名から成っている。ところで、高校ハンドボール選手のあこがれの的である優秀選手は、何にを規準に選考されるかという問題がつねにつきまとう。われわれは、これらの規準がより客観的になるとよいと考えている。そこで高校優秀選手の実態を分析してみることにした。

資料1・全日本高校ハンドボール選手の体力測定
(形態)○身長、○体重、○胸囲、指先長（垂直立位で利腕上肢挙上の高さ）、手長（左右）、手幅（左右）
(機能)○握力(左右)、○背筋力、反復上体起し、○伏臥上体そらし、○立位体前屈、○垂直跳、○反復横跳び、9m3往復走、踏台昇降（4分間 男＝50cm、女＝40cm）
○印は文部省調査共通項目

なお測定チームは男女とも43年度は無作為に各16チーム、44年度から48年度までは上位各16チームとし実際に測定し得たのは6年間通算で男66(462名)、女68(476名)であった。

資料1にある項目によって体力の測定を行なった。この測定項目は昭和四十三年から始められたものであり、年次比較ができるように本年まで変えられていない。この中には、われわれが特に呼称しているものがあるので説明を加えておきたい。まず指先長とは、垂直方位で利腕を返上させ床から指先までの垂直距離であらわしている。ボールを投げ出す位置、または防御に関係する身体部位の到達点と言う意味で、ハンドボール競技には重要であると考えている。また手長とは手首から指先までの直線距離をもってあらわしている。手幅とは手を力一ぱいに開かせたときの拇指と小指の先端から先端までの直線距離であらわした。これらはボールを扱う能力としての形態的に貢献する度合が多いと考えたからである。体力の機能的面をとらえるために、握力背筋力の代表的な筋力測定と、筋持久力をみようとしての反復上体おこし、柔軟性をとらえるために体前屈と上体そらしの二項目、筋パワーをみるために垂直とび、敏捷性をとらえる反復横とびおよび9m3往復走（これはスタートラインから9mのところに三個のボールを置き、合図により一個ずつボールを持ち帰るための三往復走でこの所要時間を計測するまた、全身持久力をみる踏台昇降テスト（男子五〇cm女子四〇cmの台高で五分間）を行なった。体力測定を実施している段階ではその年の優秀選手が決定していないので、大会三日目、この日に出場した男女それぞれ十六のチームに体力測定参加をよびかけている。各チームの人数は主力選手各七名ずつに限っている。

測定結果および考察

優秀選手と比較をするために測定に参加した全選手の各項目ベスト位10の記録、インターハイ測定者全員の平均値および標準偏差、同年令の男女全国平均値があげられている表1及び表2は男子が昭和47年のものであり、女子は昭和45年で統一されている。この年度を選んだ理由は優秀選手の体力測定該当者が一番多い年であり男子15名全員と女子12名であったからである。身長、体重、胸囲ではインターハイ上位チームの全平均値が全国平均を上廻り、各測定項目のベスト10位の記録は、選手を上廻っているということがわかる。また、指先長、手長、手幅の項においても大きさ、位はかわっていない。男子の機能についてみたものが図2である。握力は形態にみられた順位が同一である。ところが背筋力ではベスト10位の記録がとびぬけているだけで他はそれほど差がみられない。反復上体おこしでは、筋力と同様であり、9m3往復走では、形態と同一の順位である。踏台昇降運動はベスト10位だけが

〔表1〕・形態	身長	体重	胸囲	指先長	手長平均値	手幅平均値	握力	背筋力
	cm	kg	cm	cm	cm	cm	kg	kg
昭和47年男子								
優秀選手	178.0	71.0	94.1	228.0	20.0	23.1	54.5	163.0
ベスト10位	175.3	66.1	91.2	224.0	19.0	21.9	50.2	141.1
インターハイ平均値	172.2	3.7	89.3	217.6	18.7	21.3	47.9	139.5
インターハイ標準偏差値	5.7	6.1	3.9	8.3	1.0	1.4	5.8	19.6
全国平均値	168.0	58.0	85.3	—	—	—	45.8	139.5
昭和45年女子								
優秀選手	164.0	60.0	87.0	206.0	18.7	20.3	36.0	128.0
ベスト10位	159.5	54.4	82.4	199.6	18.0	19.1	34.0	120.0
インターハイ平均値	158.1	53.6	82.5	198.6	17.7	19.1	30.7	109.8
インターハイ標準偏差値	4.5	5.4	3.5	6.8	0.9	1.0	4.6	15.0
全国平均値	155.5	51.9	85.2	—	—	—	28.7	86.3

〔表2〕・機能	反復上体おこし	立位体前屈	伏臥上体そらし	垂直とび	反復横とび	9m三往復走	踏台昇降
	回	cm	cm	cm	点	秒	5分間指数
昭和47年男子							
優秀選手	26.0	19.4	66.0	71.0	51.0	13.5	97.4
ベスト 10位	22.0	13.1	60.9	65.4	48.2	13.7	88.0
インターハイ 平均値	22.3	13.5	56.5	63.9	46.2	13.9	87.4
インターハイ標準偏差値	2.6	5.5	7.7	5.4	3.6	0.4	9.3
全国 平均値	—	16.2	58.6	59.5	43.6	—	—
昭和45年女子							
優秀選手	16.0	23.0	66.0	56.0	48.0	14.4	95.5
ベスト 10位	13.5	14.8	60.4	53.6	45.1	14.7	80.2
インターハイ 平均値	13.3	16.8	59.7	49.6	4.29	15.0	83.5
インターハイ標準偏差値	2.0	5.2	5.8	5.0	3.5	0.5	9.7
全国 平均値	—	17.8	59.8	41.0	38.2	—	—

高く、他は差があまりみられない。垂直とびは順位があらわれており、立位体前屈では優秀選手が一番小さく、一般生徒の全国平均よりも下廻っている。上体そらしは背筋力の傾向と異って順位に差があらわれている。反復横とびも同様である。女子の優秀選手についてみると、身長、体重では男子と同様の傾向を示している。胸囲はそれぞれの群において、それほど差がみられないのである。身長が大きくて、体重が大きくて、胸囲が変わらないということは体幹よりも四肢が発達しているといえるのであろうか。指先長、手長、手幅についてはベスト11位が大きく、他はそれほど差がみられない。機能についてみると握力、背筋力、9m3往復走、垂直とび、そして反復横とびは順位の差があらわれている。反復上体おこしと上体そらしではベスト10位の記録だけが高く他はそれほど差がみられない。ところが踏台昇降テストでは優秀選手が一番小さいという順位である。

47年度の報告によると体重は選手群が大きく、他の形態は一般生徒とあまりかわらない。機能面では筋、筋パワーそして敏捷性の面でハンドボール選手がすぐれているという報告があった。インターハイで選ばれた優秀選手をみると、男子選手の場合、形態がすぐれていることがあげられる。第二には握力、9m3往復走、垂直とび、上体そらし、反復横とびにすぐれるといえそうである。第三には、立位体前屈という柔軟性に欠けても優秀選手になれるということを示唆していよう。女子選手では身長と体重にすぐれ、機能の面では握力、背筋力、9m3往復走垂直とび、そして反復横とびにすぐれ、筋持久力、柔軟性はさして問題とはならず、全身持久力ではやや劣っても優秀選手になれるという現状が明らかとなった。ベスト10位の記録は常に優秀選手よりも上位にあるということがわかった。ベスト10位の記録とは各測定項目で十番目になった測定値のことで、全項目が10位にあるという具体例はなく、その意味では抽象化されたベスト10位の人間ということになる。そこで優秀選手の内容をさらに明らかにする意味で優秀選手はベスト10位の各項目の何パーセントを保有しているかを調べたものが表2に示した。昭和43年から48年までの男子優秀選手の形態の割合（パーセント）である。表3(24頁)は優秀選手の形態の割合が年次別に示されている。

その下の欄はその年度で体力測定を受けた優秀選手の数が示されている。男子では15名が47年度にみられるが他は9名以下となっている。女子では昭和45年の12名が最高で他は8名以下となっている

表4は男子の機能と女子の機能がパーセントの割合で示されている。表4では昭和46年に100%以上になる項目が多いが被験者数は4名であるので、ベスト10位内に入っている優秀選手であろうということがわかる。他に100%を超える項目はきわめて少ない。また立位体前屈が低い。こうしてみると、ベスト10位の測定値を得る優秀選手は少ないということになる。競技力は体力と技術のかねあわせで発揮されるといわれる。これまでわれわれが考察を進めてきたのは形態と機能という概念から体力をとらえ、体力の面から優秀選手をとらえていたことになる。優秀選手が男女それぞれ15名であるので、15名の平均はそれぞれの測定項目のベスト10位にはありたいとねがう。ところが体力の面のみが優秀選手の判定材料になってはいないということが明らかとなった。ミュンヘン・オリンピックで日本と対戦したチームの身長、体重が得られたので日本のチームと比較してみたのが左図である。全日本代表のチームは昭和四十四年から順次世界の傾向に近づきつつあるように思われる

高校優秀選手とミュンヘン五輪出場の全日本代表チーム及び同対戦国チームとの身長，体重の比較

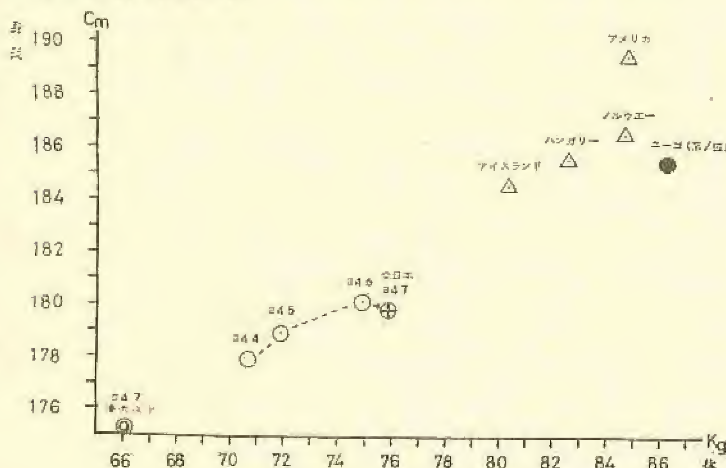


表3　男女形態における優秀選手とベスト10位の比較（優秀選手平均値／ベスト10位記録・%）

項目＼人数		43年度 男5・女2	44年度 男6・女6	45年度 男9・女12	46年度 男4・女8	47年度 男15・女6	48年度 男7・女6
男子	身長	97.7	95.7	97.6	99.7	98.5	96.6
	体重	101.2	95.5	95.3	102.7	93.1	91.9
	胸囲	—	98.7	96.1	101.4	96.9	94.9
	指先長	97.2	96.4	97.5	99.5	98.2	97.0
	手長（右）	96.9	95.8	95.0	99.5	95.5	96.8
	手長（左）	97.4	95.3	97.0	100.0	95.0	96.8
	手幅（右）	99.1	97.7	96.5	100.0	95.2	96.4
	手幅（左）	98.7	97.2	97.3	100.0	94.8	96.8
女子	身長	96.4	97.4	97.4	99.3	100.0	95.2
	体重	95.8	97.0	92.0	96.4	97.9	91.0
	胸囲	—	99.1	94.9	97.0	96.6	96.8
	指先長	95.7	99.1	96.9	99.3	99.8	95.1
	手長（右）	96.7	99.4	95.7	96.1	96.7	94.9
	手長（左）	98.3	98.3	96.8	97.2	96.7	93.7
	手幅（右）	100.0	93.4	93.6	96.5	100.5	97.0
	手幅（左）	100.0	93.9	94.6	97.4	100.5	98.5

ところが高校の優秀選手の位置は日本の国内においてもやや遠い存在にあることがわかる。優秀選手の選考はその年の相対評価から行なわれているせいであるが、高校のハンドボール界はこの相対評価に合せればよいかという問題がでてくる。日本の高校のハンドボール界の到達目標が確かめられてよいではないかと考えている。なお次頁に近畿ハンドボール研究会提供による「全日本高校選手権関係のデータ」を掲載した。

望月伸三郎
北岡　大覚

〃〃〃〃〃〃〃　有望選手へのカルテ　〃〃〃〃〃〃〃

ところで、日本協会が全国高体連ハンドボール部に選考を委嘱している「年度高校優秀選手」は有望選手発掘へかつこうのカルテになっているようで、時期が来ると実業団、大学などから問合せが多くなる。

今回のリポートの対象とされた43〜48年度のリスト（男、女各90名）をみると、男子ではオリンピック選手の佐々木（43年明星―中大―三景）をはじめ、花輪（43年、中大付―中大―大同製鋼）柳川兄（43年、熊本市商―大同製鋼）村田（45年明星―法大）、蒲生（47年中大付―中大）と5人の全日本代表が生まれている

それに引きかえ女子は、わずかに蔵田（43年、菊池農―（大洋）―立石）一人だけ。

男子の有力選手が、大学―実業団のコースを歩むようになったのに比べ、女子は、高校で〃引退〃のケースが、まだまだ多いことを物語っていよう。

★…「リポート」の寄稿を歓迎します。必ずタテ書き、図版はコピー不可。編集部まで。

表4　男女機能における優秀選手とベスト10位の比較（優秀選手平均値／ベスト10位記録・%）

項目＼人数		43年度 男5・女2	44年度 男6・女6	45年度 男9・女12	46年度 男4・女8	47年度 男15・女6	48年度 男7・女6
〔男子〕	握力（右）	89.4	101.4	90.0	103.8	92.0	95.6
	握力（左）	97.6	93.7	96.0	106.9	92.1	93.2
	背筋力	98.0	98.2	92.0	102.7	86.9	96.5
	反復上体おこし	86.7	97.2	89.2	100.0	84.6	91.7
	立位体前屈	85.7	84.4	61.5	85.0	68.9	77.0
	伏臥上体そらし	97.5	94.3	91.5	89.4	92.3	91.6
	垂直とび	90.4	86.4	85.3	102.3	92.1	101.6
	反復横とび	91.3	97.0	90.2	100.6	94.1	96.5
	9m　3往復走	96.6	97.8	98.5	100.0	98.5	97.2
	踏台昇降5分間	86.5	84.7	80.0	95.7	90.3	100.6
〔女子〕	握力（右）	85.3	92.5	93.5	98.5	101.3	100.8
	握力（左）	87.1	75.0	87.4	98.6	103.9	99.4
	背筋力	79.4	86.2	93.8	88.1	91.5	94.8
	反復上体おこし	80.0	109.4	84.4	96.0	88.8	89.4
	立位体前屈	—	55.5	64.3	93.9	75.7	73.3
	伏臥上体そらし	87.9	90.6	91.5	93.5	97.7	85.7
	垂直とび	94.4	85.5	95.7	92.1	96.4	97.9
	反復横とび	90.9	98.2	94.0	95.9	97.4	92.9
	9m　3往復走	96.8	96.6	89.0	95.9	98.0	100.0
	踏台昇降5分間	94.6	89.8	84.0	92.4	82.7	97.2

〔附〕 昭和48年度全日本高校選手権出場選手体力測定・チーム別平均値，標準偏差並びに昭和43年度～昭和48年度別平均値標準偏差

（近畿ハンドボール研究会提供）

〔男子〕

番号	チーム名	所属都道府県名	身長	体重	胸囲	指先長	手長		手巾		筋力 握力		背筋力	反復上体おこし	柔軟性 立位体前屈	伏臥上体そらし	瞬発力 垂直跳	敏捷性 サイドステップ	9m 3往復走	持久力 踏台昇降（5分間）
							右	左	右	左	右	左								
			cm	kg	cm	cm	cm		cm		kg		kg	30秒回	cm	cm	cm	点	秒	指数
1	生駒	奈良	171.1	67.2	89.4	215.1	17.9	17.5	20.9	21.1	48.8	44.3	126.9	23.3	13.4	59.6	56.9	49.3	13.9	90.9
2	湯沢	秋田	174.1	69.1	91.6	221.6	18.5	18.0	21.5	21.5	52.4	47.1	157.0	22.7	14.4	57.7	60.4	49.3	13.9	88.6
3	津工	三重	165.7	55.4	82.9	208.7	17.9	17.5	20.7	20.5	46.0	43.0	129.1	22.0	14.1	59.4	56.3	45.1	14.2	95.7
4	岐阜商	岐阜	173.4	62.0	85.9	219.3	17.9	17.8	20.7	20.5	45.6	42.9	141.6	21.4	11.4	61.6	58.6	46.4	14.1	89.4
5	名城大附	愛知	171.1	61.4	87.3	215.1	18.2	17.9	20.1	21.3	46.4	43.7	119.7	—	14.6	62.4	—	—	—	—
6	中央大附	東京	173.4	66.0	92.0	218.3	19.1	18.9	21.6	21.3	47.3	43.3	142.7	23.4	15.4	57.0	58.4	42.9	14.4	89.2
7	三本松	香川	172.0	61.6	87.3	215.7	17.9	17.7	20.3	20.3	47.2	45.6	142.9	22.1	13.6	58.0	60.3	48.0	14.2	88.4
8	初芝	大阪	170.9	64.6	89.7	213.7	18.2	18.2	20.5	20.5	40.1	45.1	152.1	22.1	13.9	60.0	56.9	42.4	14.0	86.4
9	八幡工	滋賀	175.1	64.6	90.0	219.7	18.6	18.5	20.9	21.0	46.4	42.9	139.1	21.9	16.9	64.6	55.1	47.0	14.4	92.2
S48	平均値		171.9	62.5	88.4	216.4	18.2	18.0	20.9	20.9	47.6	44.2	139.0	22.3	14.2	60.0	57.2	46.6	14.1	90.1
	標準偏差		5.4	6.6	4.8	7.7	0.9	0.9	1.1	1.1	5.4	5.0	22.0	2.1	4.5	6.8	5.4	3.4	0.4	10.7
S47	平均値		1772	63.7	89.3	2176	18.7	18.7	21.3	21.2	498	46.0	1395	223	13.5	56.5	63.9	46.2	13.9	87.4
	標準偏差		57	6.1	3.9	83	1.0	1.0	1.4	1.4	5.9	5.7	19.6	2.9	5.5	7.7	5.4	3.6	0.4	9.3
S46	平均値		1712	63.5	88.38	2151	18.3	18.3	21.0	20.9	49.44	44.82	149.04	22.20	14.69	60.93	62.14	44.00	13.89	91.66
	標準偏差		5.15	8.04	5.50	7.81	0.88	0.88	1.09	1.01	6.55	4.93	24.53	2.15	4.90	9.14	5.31	3.81	0.65	11.74
S45	平均値		17064	61.55	87.95	21549	18.83	18.80	21.22	20.96	48.34	43.61	156.40	22.06	13.32	58.74	63.75	46.69	13.99	81.73
	標準偏差		4.97	5.35	3.80	7.39	0.96	0.92	1.10	1.10	5.53	5.85	20.75	2.15	5.35	5.84	7.14	4.42	0.56	11.66
S44	平均値		1705	61.6	—	2156	18.3	18.3	20.4	20.4	48.8	44.7	133.3	22.2	12.7	55.8	64.8	44.4	13.9	85.8
	標準偏差		5.20	5.33	—	7.38	0.78	0.79	1.04	0.94	6.47	5.28	19.81	2.28	4.74	7.92	7.46	4.48	0.34	9.07
S43	平均値		1702	61.7	—	2150	18.2	18.4	20.8	21.0	44.7	40.6	148.5	21.1	13.4	57.9	61.8	43.5	14.6	96.5
	標準偏差		4.22	4.84	—	3.08	0.66	0.76	1.19	1.23	5.72	6.27	20.76	2.10	6.01	6.09	6.16	3.43	0.52	10.73

〔女子〕

番号	チーム名	所属都道府県名	身長	体重	胸囲	指先長	手長		手巾		筋力 握力		背筋力	反復上体おこし	柔軟性 立位体前屈	伏臥上体そらし	瞬発力 垂直跳	敏捷性 サイドステップ	9m 3往復走	持久力 踏台昇降（5分間）
							右	左	右	左	右	左								
			cm	kg	cm	cm	cm		cm		kg		kg	30秒回	cm	cm	cm	点	秒	指数
1	三本松	香川	163,0	57,0	83,1	204,4	17,5	17,1	19,1	19,1	36,7	34,0	118,0	14,3	16,4	68,4	46,1	44,9	15,0	102,7
2	甲子園学院	兵庫	160,3	55,6	82,1	201,3	17,0	16,7	18,9	18,7	31,7	28,3	87,4	14,3	17,2	65,1	42,6	39,8	16,3	90,0
3	高岡女子	富山	160,4	54,7	80,5	203,1	16,8	16,5	19,4	19,2	34,0	31,3	86,4	15,9	22,3	67,3	45,7	45,6	15,3	90,9
4	小諸商	長野	158,7	52,7	82,4	198,4	16,7	16,5	18,9	19,0	34,9	32,6	93,0	14,8	19,2	65,0	43,3	41,3	15,2	92,0
5	国学院栃木	栃木	160,4	56,3	82,9	200,5	17,1	16,8	19,6	19,1	34,5	32,8	104,3	14,5	16,0	60,3	44,0	41,5	15,3	91,2
6	四日市	三重	160,1	54,3	83,3	201,0	17,0	16,9	19,4	19,3	34,0	30,9	90,6	14,1	17,7	65,0	40,4	44,1	15,3	95,4
7	暁	三重	156,0	50,3	79,1	196,0	16,9	16,5	18,3	18,4	31,0	29,1	72,4	14,1	16,6	54,9	41,0	43,0	15,7	93,3
S48	平均値		159,9	54,4	81,9	200,7	17,1	16,7	19,2	19,0	33,8	31,3	92,9	14,6	18,3	63,8	43,3	43,1	15,5	93,9
	標準偏差		4,3	4,5	3,1	6,5	0,8	0,8	0,9	1,0	4,5	4,7	21,4	1,5	4,1	6,7	5,1	2,9	0,7	10,8
S47	平均値		1586	54.7	83.0	1994	17.0	17.0	192	19.0	34.7	31.0	925	13.9	17.1	59.8	48.6	43.6	15.1	89.2
	標準偏差		49	5.5	3.7	71	0.7	0.8	1.2	1.2	4.5	3.9	17.1	1.7	4.2	5.8	5.6	3.6	0.5	10.3
S46	平均値		15910	5554	83.00	19955	16.77	16.80	15.57	18.45	35.16	32.08	10186	13.41	17.90	63.10	47.76	41.97	14.85	95.02
	標準偏差		4.69	5.82	3.51	7.39	0.92	0.97	1.14	1.10	4.18	3.80	1502	1.32	5.25	5.99	5.10	4.24	0.62	14.06
S45	平均値		15814	5359	8245	19851	17.59	17.65	19.09	18.90	3226	29.05	109.79	13.33	16.79	59.68	49.60	42.85	14.99	83.48
	標準偏差		4.51	5.37	3.46	6.81	0.50	0.92	0.98	1.03	4.83	4.25	1504	1.08	5.15	5.81	5.03	3.51	0.50	9.70
S44	平均値		1587	54.5	—	1998	16.4	16.8	18.3	18.4	34.4	31.3	89.2	13.8	17.11	59.4	48.5	42.1	15.0	89.4
	標準偏差		4.58	4.89	—	7.15	0.86	0.84	1.06	0.97	4.38	4.25	1270	1.58	4.26	5.65	5.21	2.51	0.42	9.57
S43	平均値		1592	55.0	—	200.7	17.1	17.1	18.8	18.8	28.9	26.0	1039	12.9	16.1	59.7	47.6	41.1	15.4	96.5
	標準偏差		4.41	4.92	—	6.73	0.37	0.96	1.03	1.02	4.22	4.31	18.50	1.36	5.72	5.30	5.69	2.40	0.47	14.24

第25回 全日本高校選手権各県予選記録（下）

★太字は代表校

北海道

▼道中央大会・男子1回戦
室蘭栄 10—7 釧路江南
紋別南 4—3 室蘭工
旭川東 9—8 倶知安
函館有斗 18—5 札幌南
▽同準々決勝
函館大谷 15—2 室蘭栄
紋別南 8—7 札幌北陵
室蘭東 14—11 旭川東
函館有斗 15—9 釧路湖陵
▽同準決勝
函館大谷 5—4 紋別南
函館有斗 18—7 室蘭東
▽同決勝
函館有斗 7—6 函館大谷
函館有斗は2年ぶり3度目の出場
▼女子1回戦（3試合）
室蘭商 15—1 紋別北
函館商 8—5 釧路湖陵
登別 12—3 恵庭南
▽同準決勝
函館女商 10—2 室蘭商
登別 3—1 函館商
▽同決勝
函館女商 12—1 登別
函館女商は2年ぶり3度目の出場

東北

▽……青森県
▼男子1回戦
十和田工 16—8 鰺ヶ沢
青森東 30—9 板柳
青森商 16—8 五所川原工
野辺地 15—4 五所川原
三本木 13—8 柏木農
▽男子準々決勝
弘前南 16—13 十和田工
青森東 11—9 青森商
野辺地 10—8 七戸
三本木 13—6 青森
▽同準決勝
弘前南 13—10 青森東
三本木 14—7 野辺地
▽同決勝
弘前南 15—8 三本木
弘前南は初の出場
▼女子準々決勝（＝1回戦）
青森西 19—0 鰺ヶ沢
七戸 10—8 柏木農
野辺地 7—6 三本木
▽同準決勝
青森 16—4 大湊
青森西 12—1 七戸
野辺地 7—3 青森
▽同決勝
青森西 13—4 野辺地
青森西は5年連続5度目の出場

▽……山形県
▼男子決勝リーグ
大石田 9—3 新庄工
寒河江 12—5 真室川
大石田 15—4 東根工
新庄工 13—5 真室川
東根工 10—4 寒河江
東根工 13—5 真室川
寒河江 12—5 新庄工
大石田 22—9 真室川
東根工 8（分）8 新庄工
大石田 7—5 寒河江
【順位】①**大石田**4戦全勝＝3年連続9度目の出場②東根工2勝1分1敗③寒河江2勝2敗④新庄工1勝1分2敗⑤真室川4敗
▼女子決勝リーグ
竹田女 3—2 米沢女
米沢女 11—3 尾花沢
竹田女 5—2 尾花沢
【順位】①**竹田女**2勝＝4年連続6度目の出場②米沢女1勝1敗③尾花沢2敗

関東

▽……栃木県
▼男子1回戦（2試合）
馬頭 38—9 矢板中央
国学院栃木 26—8 宇都宮工
▽同準々決勝
国学院栃木 17（延）16 足利工
烏山 34—4 石橋
栃木農 12—11 足利商
馬頭 40—5 足利
▽同準決勝
烏山 20—3 国学院栃木
馬頭 22—4 栃木農
▽同決勝
馬頭 9—1 烏山
馬頭は初出場
▼女子準決勝
佐野女 7—6 小山城南
国学院栃木 13—1 馬頭
▽同決勝
国学院栃木 8—3 佐野女
国学院栃木は4年連続4度目の出場

▽……茨城県
▼男子1回戦
江戸崎 27—1 常北
土浦三 29—10 鬼怒商
玉造工 21—6 岩井
水戸工 15—10 土浦一
茨城 17—7 下館一
波崎 27—5 古河三
水海道一 19—14 江戸崎西
石岡商 13—9 磯原
水戸一 24—6 勝田工
笠間 27—3 石下
総和工 20—7 日立一
石岡一 24—9 取手一
竜ケ崎一 23—10 日立工
鉾田一 24—4 真壁農
麻生 32—4 緑ケ岡
▽同2回戦
土浦工 19—8 江戸崎
土浦三 13—12 玉造工
茨城 18—6 水戸工
水海道一 20—7 波崎
水戸一 20—16 石岡商
笠間 27—5 総和工
石岡一 20—6 竜ケ崎一
麻生 15—3 鉾田一
▽同準々決勝
土浦工 12—9 土浦三
水海道一 9—5 茨城
水戸一 8—6 笠間
麻生 9—5 石岡一
▽同準決勝
土浦工 15—11 水海道一
麻生 18—9 水戸一
▽同決勝
麻生 12—6 土浦工
麻生は2年ぶり12度目の出場
▼女子1回戦
竜ケ崎二 5—3 土浦三
太田二 14—4 石下
高萩 8（延）7 岩井
波崎 8—6 潮来
磯原 18—4 江戸崎
▽同2回戦
水海道二 11—0 竜ケ崎二
鉾田二 19—1 常北
笠間 21—3 水戸二
石岡二 22—5 太田二
麻生 18—6 高萩

波崎 17—6 日立二
結城二 17—5 八郷
石岡商 12—2 磯原
▽同準々決勝
水海道二 14—6 鉾田二
石岡二 14—7 笠間
麻生 14—4 波崎
石岡商 11—6 結城二
▽同準決勝
水海道二 10—3 石岡二
麻生 18—9 石岡商
▽同決勝
水海道二 6—5 麻生
水海道二は3年連続17度目の出場

▽……群馬県

▼男子準々決勝（＝1回戦）
前橋商 14—11 上武一
前橋工 16—8 桐生工
富岡 28—8 桐生
藤岡 22—5 太田工
▽同準決勝
藤岡 8—5 富岡
前橋商 22—10 前橋工
△同決勝
前橋商 14—7 藤岡
前橋商は7年ぶり2度目
▼女子準々決勝（＝1回戦）
桐生女 5—4 前橋市女
高崎女 16—2 高崎市女
群馬女大附 17—6 前橋東商
下仁田 11—6 前橋商
▽同準決勝
桐生女 16—2 高崎女
下仁田 11（延）7 群馬女大附
▽同決勝
桐生女 12—6 下仁田
桐生女は2年連続6度目の出場

▽……山梨県

▼男子準々決勝
塩山商 21—3 甲府工
日川 19—5 都留
甲府 19—13 甲府南
明誠 18—7 韮崎工
▽同準決勝
塩山商 22—3 甲府商
日川 15—11 明誠
▽同決勝
塩山商 19—7 日川
塩山商は2年ぶり15度目の出場
▼女子準々決勝
山梨 23—1 長坂
吉田商 11—2 甲府二
塩山 7—5 甲府商
日川 15—0 一商
▽同準決勝
山梨 11—5 塩山商
日川 8—3 吉田商
▽同決勝
日川 2—0 山梨
日川は7年ぶり4度目の出場

▽……埼玉県

▼男子1回戦
教大付坂戸 19—6 寄居
秩父 18—9 大宮北
桶川 25—3 草加
聖望 10—8 朝霞
秩父農工 20—4 浦和工
浦和西 16—7 大宮
▽同2回戦
教大付坂戸 14—3 春日部
桶川 14—4 秩父
秩父農工 10—3 聖望
浦和西 23—4 県立坂戸
▽同準々決勝
教大付坂戸 8—6 浦和南
川口工 26—12 桶川
菖蒲 19—10 秩父農工
浦和西 12—8 浦和市立
▽同準決勝
教大付坂戸 11—9 川口工
菖蒲 15—5 浦和西
▽同3位決定戦
川口工 13—5 浦和西
▽同決勝
菖蒲 14—6 教大付坂戸
菖蒲は初出場
▼女子1回戦
川口女 26—1 大宮北
聖望 7—6 熊谷商
大妻嵐山 7—4 浦和南
浦和西 7—3 寄居
▽同準々決勝
深谷女 5—3 川口女
朝霞 15—4 聖望
行田女 6—5 大妻嵐山
浦和市立 8—3 浦和西
▽同準決勝
深谷女 14—2 朝霞
浦和市立 5—3 行田女
▽同3位決定戦
朝霞 8—7 行田女
▽同決勝
深谷女 10—6 浦和市立
深谷女は9年連続10度目の出場

▽……東京都

▼男子予選トーナメント最終戦（＝決勝リーグ進出校決定戦）
中大付 25—6 三宅
小岩 9—7 国立
明星 14—8 杉並
拓大一 10—8 三商
▽同決勝リーグ
中大付 23—6 小岩
拓大一 8—5 明星
中大付 19—3 明星
小岩 10—6 拓大一
中大付 21—5 拓大一
小岩 10—6 明星
【順位】①中大付＝中大付は10年連続10度目の出場②小岩③拓大一④明星
▼女子予選トーナメント最終戦（＝決勝リーグ進出校決定戦）
小平 8—5 藤村
二商 6—3 池袋商
五商 16—5 久留米
桜水商 6—4 三宅
▽同決勝リーグ
小平 11—3 二商
桜水商 9—5 五商
小平 11—4 五商
二商 7—6 桜水商
小平 9—5 桜水商
二商 6—5 五商
【順位】①小平＝小平は3年ぶり5度目の出場②二商③桜水商④五商

▽……神奈川県

▼男子予選トーナメント1回戦
南 15—9 桜丘
浅野 18—9 相模台工
一商 34—4 戸塚
県商工 24—3 逗子
市川工 12—8 翠嵐
北陵 16—8 日野
関東学院 9—7 緑丘
多摩 10—9 希望ケ丘
磯子工 9—4 法政工
▽同2回戦
法政二 9—4 南
鎌倉学園 18—11 浅野
一商 27—1 向岡工
県商工 20—2 光陵
桐蔭 25—9 神奈川工
横浜商工 16—7 相模原
川和 12—8 市川崎工
慶応 23—8 北陵
横浜商 20—14 生田
東 不戦勝 厚木商
関東学院 13—11 大和
市川崎 10—9 多摩
新城 不戦勝 横須賀工
平沼 17—15 高津
立野 15—8 磯子工
▽同3回戦
法政二 17—7 鎌倉学園
一商 29—4 港北
桐蔭 18—9 県商工
横浜商工 13—11 川和
慶応 19—7 横浜商
関東学院 17—5 東
市川崎 18—4 新城
立野 18—13 平沼

▽同決勝リーグ進出校決定戦
一商 13（延）11 法政二
横浜商工 没収試合 桐蔭
慶応 17—7 関東学院
立野 18—12 市川崎
▽同決勝リーグ
慶応 16—7 横浜商工
一商 18—9 立野
慶応 8—6 一商
横浜商工 14—10 立野
一商 24—13 横浜商工
慶応 25—6 立野
【順位】①慶応＝2年連続3度目の出場②一商③横浜商工④立野
▼女子予選トーナメント1回戦
桜丘 6—2 北陵
高津 7—6 江南
川和 7—5 南
平沼 18—3 戸塚
大津 12—5 生田
厚木商 8—6 高浜
上溝 9—6 京浜
立野 4—2 多摩
▽同2回戦
東 5（延）3 桜丘
高津 14—1 新城
川和 6—4 緑丘
明倫 15—0 平沼
県商工 13—3 大津
日野 7—4 厚木商
上溝 22—2 三浦
市川崎 12—4 立野
▽同決勝リーグ進出校決定戦
東 4—2 高津
明倫 17—3 川和

県商工 8—4 日野
市川崎 19—2 上溝
▽同決勝リーグ
市川崎 4—1 東
明倫 16—6 県商工
県商工 6—3 東
明倫 4（分）4 市川崎
明倫 14—3 東
市川崎 5—4 県商工
【順位】①明倫＝2年連続2度目の出場②市川崎③県商工④東

東海

▽……三重県
▼男子予選トーナメント1回戦
津 14—8 海星
四日市中央工 11—8 尾鷲
亀山 22—10 四日市
▽同2回戦
四日市工 21—2 津
高田 14—8 四日市中央工
津工 15—10 亀山
▽同決勝リーグ
四日市工 12—9 津工
高田 13—12 津工
四日市工 23—10 高田
【順位】①四日市工＝3年連続16度目の出場②高田③津工
▼女子予選トーナメント1回戦
上野商 6—2 白山
暁 9—6 亀山
四日市商 5—3 菰野
上野 9—3 尾鷲
▽同2回戦
津女子 15—2 上野商
四日市 18—6 上野
暁 7—2 四日市商
▽同決勝リーグ
津女子 9—4 暁
四日市 4—2 暁
津女子 10—3 四日市
【順位】①津女子＝2年ぶり9度目の出場②四日市③暁

北信越

▽……富山県
▼男子1回戦（2試合）
伏木 22—4 有磯
二上工 17—5 高岡
▽同2回戦
高岡商 16—13 伏木
富山工 17—14 富山中
雄山 16—8 富山商
富山北 13—12 富山
氷見 16—3 八尾
大沢野 17—5 滑川
富山東 17—5 小杉
高岡日大 15—7 二上工
▽同準々決勝
高岡商 22—12 富山工
富山北 12—9 雄山
氷見 36—3 大沢野
高岡日大 15—8 富山東
▽同準決勝
高岡商 19—7 富山北
氷見 18—14 高岡日大
▽同決勝
氷見 14—8 高岡商
氷見は7年ぶり13度目の出場
▽女子1回戦（3試合）
清光 10—1 高岡
有磯 9—8 富山女
高岡女 11—3 富山北
▽同準決勝
小杉 10—0 清光
高岡女 8—5 有磯
▽同決勝
小杉 7—6 高岡女
小杉は初出場

近畿

▽……滋賀県（2次予選）
▼男子準決勝
八幡工 26—7 彦根工
安曇川 13—11 米原
▽同3位決定戦
米原 16—12 彦根工
▽同決勝
八幡工 13—7 安曇川
八幡工は2年連続7度目の代表
▼女子準決勝
彦根西 11—2 安曇川
守山女 5—3 高島
▽同決勝
彦根西 12—7 守山女
彦根西は11年ぶり7度目の出場
▽……兵庫県
▼男子予選トーナメント1回戦
小野工 21—3 有馬
市神戸工 16—14 西宮東
市須磨 24—8 佐用
東播工 12—6 市西宮

▽同2回戦
小野工 10—9 明石
県兵庫工 20—7 尼崎小田
明石商 15—13 神戸北
県神戸商 12—10 尼崎工
私神港 22—11 甲陽
西宮北 12—7 明石北
三田 17—10 市神港
明石南 22—10 市神戸工
報徳 30—7 市須磨
柏原 18—7 鳴尾
宝塚 26—10 御影工
県伊丹 15—7 八代
武庫工 24—7 県兵庫
鈴蘭台 棄権 川西緑台
北須磨 13—1 香住
滝川 23—10 東播工
▽同3回戦
県兵庫工 15—7 小野工
明石商 11—9 県神戸商
私神港 19—9 西宮北
明石南 13—9 三田
報徳 20—11 柏原
宝塚 14—11 県伊丹
武庫工 13—12 鈴蘭台
滝川 26—6 北須磨
▽同4回戦
県兵庫工 15—12 明石商
明石南 18—5 私神港
報徳 32—11 宝塚
武庫工 18—7 滝川
▽同決勝リーグ
明石南 18—11 県兵庫工
報徳 12—11 武庫工
県兵庫工 11（分）11 武庫工

明石南 11(分)11 報徳
県兵庫工 11(分)11 報徳
武庫工 25—10 明石南
【順位】①報徳1勝2分＝初出場②武庫工・明石南1勝1分1敗④県兵庫工2分1敗

▼女子予選トーナメント1回戦
北条 21—1 園田
神戸女商 25—1 鳴尾
県尼崎 8(延)7 市飾磨
市須磨 11(分)11 佐用
抽せんで市須磨の勝ち
西宮北 5—4 県兵庫工
柏原 棄権 須磨女
市神港 11—4 明石北
明石南 7—3 尼崎小田
鈴蘭台 13—3 県伊丹
西宮東 8—7 北須磨
市西宮 6—4 近大付農岡

▽同2回戦
夙川 16—2 市須磨
神戸女商 13—5 北条
県尼崎 5—3 西宮北
甲子園 18—1 柏原
市神港 13—10 明石
鈴蘭台 12—6 明石南
明石商 11—7 西宮東
県神戸商 14—2 市西宮

▽同3回戦
神戸女商 5—1 夙川
甲子園 9—0 県尼崎
鈴蘭台 7—1 市神港
県神戸商 15—4 明石商

▽同決勝リーグ
神戸女商 12—5 甲子園
県神戸商 7—5 鈴蘭台
県神戸商 7—3 神戸女商
甲子園 8—2 鈴蘭台
県神戸商 10—5 鈴蘭台
県神戸商 12—4 甲子園
【順位】①県神戸商3戦全勝＝初出場②神戸女商2勝1敗③甲子園1勝2敗④鈴蘭台3敗

▽……京都府

▼男子1回戦(2試合)
洛北 12—8 鴨沂
城陽 16—2 京都商

▽同2回戦
堀川 11—4 日吉ケ丘
大谷 26—7 同志社
洛星 9—7 桂
城南 22—12 平安
東山 21—10 洛陽
乙訓 15—6 洛東
伏見工 16—8 洛北
嵯峨野 11—6 城陽

▽同準々決勝
洛星 12—10 大谷
城南 14—13 東山
嵯峨野 19—7 乙訓
伏見工 13—5 堀川

▽同準決勝
伏見工 7—4 洛星
嵯峨野 10—8 城南

▽同決勝
嵯峨野 6—5 伏見工
嵯峨野は初出場

▼女子1回戦
光華 9—8 洛北
京都女 18—1 桂
洛東 6—5 鴨沂
城南 9—2 日吉ケ丘
西京商 6—0 乙訓

▽同準々決勝
明徳商 9—1 光華
京都女 10—6 嵯峨野
洛東 9—0 城南
西京商 5—4 精華

▽同準決勝
明徳商 10—2 京都女
西京商 7—1 洛東

▽同決勝
明徳商 7—2 西京商
明徳商は4年連続6度目の出場

▽……大阪府

▼1次予選男子1回戦勝者　泉陽、箕面、和泉、寝屋川、豊中、北淀、春日丘、住吉、天王寺、富田林、東住吉工、高津、都島工、成器、東住吉、初芝、勝山、八尾、大阪商、清風、古野、三国ケ丘、枚方、茨木、泉大津、泉北、此花、門真
◎編集部注　東住吉工15—8桃山

▽同2回戦勝者、佐野工、箕面、寝屋川、春日丘、天王寺、富田林、都島工、鳳、摂津、初芝、八尾、清風、三国ケ丘、泉大津、泉北、門真

▽同3回戦
佐野工 15—13 箕面
春日丘 11—9 寝屋川
富田林 12—9 天王寺
初芝 13—12 摂津
三国ケ丘 19—9 泉大津
鳳 9—7 都島工
清風 11—9 八尾
泉北 17—10 門真
(注)勝者8校は最終予選進出

▽2次予選同北ブロック1回戦
扇町 13—6 東淀川
此花工 7—2 箕面学園
北野 18—3 大教池田
千里 18—4 大阪学院
豊中 13—6 北淀
大商 13—1 西野田工
箕面 12—10 池田

▽同2回戦
豊中 18—9 桜塚
此花工 10—8 扇町
北野 16—4 千里
大商 18—8 箕面

▽同敗者復活1回戦
北淀 6—4 桜塚
東淀川 9—8 箕面学園
大教池田 18—5 大阪学院
池田 14—5 西野田工

▽同敗者復活2回戦
大教池田 11—8 東淀川
北淀 10—2 池田

▽同決勝リーグ進出校決定戦
北淀 16—6 大教池田
豊中 12—7 大商
北野 20—5 此花工

▽同決勝リーグ
北野 12—10 豊中
北淀 11—10 豊中
北淀 10—9 北野
(注)北淀と北野が最終予選へ進出

▽同南ブロック1回戦
岸和田 16—4 堺東
登美丘 12—11 長野
泉南 6—3 和泉
泉陽 10(延)9 羽曳野
堺工 23—2 生野工
和泉工 6—4 生野
藤井寺工 9—8 成器南

▽同2回戦
堺工 16—8 泉陽
和泉工 8—7 藤井寺工
登美丘 13—7 泉南
岸和田 16—7 泉大津

▽同3回戦
堺工 10—5 和泉工
岸和田 8(分)8 登美丘
7Mコンテストで岸和田の勝ち

▽同チャレンジマッチ
堺工 16—8 登美丘
岸和田 11—4 和泉工
(注)岸和田と堺工が最終予選進出

▽同東ブロック1回戦
浪商 10—7 門真
淀川工 19—11 城東工
寝屋川 11—3 高津
枚方 棄権 北陽

▽同2回戦
浪商 17—14 四条畷
寝屋川 29—5 淀川工
枚方 6—2 摂津
三島 7—6 都島工

▽同敗者復活1回戦
高津 15—6 城東工

▽同シード戦
四条畷 14—4 茨木

淀川工13―12太成
高津8―7摂津
門真10―5都島工
▽同敗者復活2回戦
淀川工5―4四條畷
門真13―7高津
▽同勝者3回戦
寝屋川10―7浪商
枚方7―4三島
▽同敗者復活3回戦
門真9―8三島
浪商21―4淀川工
▽同敗者復活4回戦
浪商11―7門真
▽同勝者4回戦（第1決勝戦）
寝屋川9（延）8枚方
（注）寝屋川は最終予選へ進出
▽同敗者復活5回戦（第2決勝戦）
枚方12―10浪商
（注）枚方は最終予選へ進出
▽同中ブロック1回戦
上宮18―6山本
東住吉工12―9東住吉
勝山20―9阪南
此花棄権阿倍野
桃山15―7花園
▽同準々決勝
上宮13―7天王寺
東住吉工25―2市立工芸
八尾15―4勝山
桃山13―10此花
▽同準決勝
東住吉工10―9上宮
桃山18―6八尾
▽同決勝
桃山16―9東住吉工
（注）桃山と東住吉工は最終予選へ
▽最終予選男子1回戦
鳳20―8岸和田
寝屋川14―8清風
佐野工15―11北野
桃山19―12泉北
三国ケ丘15―8枚方
富田林26―6堺工
初芝18―13東住吉
春日丘13―7北淀
▽同決勝リーグ進出校決定戦
寝屋川14―13鳳
桃山15―10佐野工
富田林14―11三国ケ丘
初芝18―14春日丘
▽同決勝リーグ
桃山15―9寝屋川
富田林14（分）14初芝
富田林19―12寝屋川
桃山21―11初芝
初芝21―15寝屋川
桃山23―16富田林
【順位】①桃山＝初出場②富田林・初芝④寝屋川
▼1次予選女子1回戦勝者（3試合）、池田、岸和田、摂津
▽同2回戦勝者大谷、つるみ商、鳳、門真、淀商、四天王寺、寝屋川、枚方、和泉、春日丘、三島、天王寺、泉大津、東住吉、大女短付住吉学園
▽同3回戦勝者　大谷、門真、四天王寺、寝屋川、和泉、天王寺、東住吉、住吉学園
▽同4回戦
大谷9―3門真
四天王寺6―5寝屋川
天王寺6―3和泉
住吉学園17―2東住吉
（注）勝者4校は最終予選へ進出
▽2次予選女子北ブロック1回戦
箕面14―2扇町
梅花3（分）3東淀川
7MTコンテストで梅花の勝ち
池田5―2淀商
北淀5―4豊中
▽同敗者復活1回戦
豊中7―6扇町
淀商1（分）1東淀川
7MTコンテストで淀商の勝ち
▽同敗者復活2回戦
豊中8―4淀商
▽同勝者2回戦
箕面5―0北淀
梅花5―4池田
▽同決勝リーグ
箕面7―3梅花
箕面4―0豊中
豊中棄権梅花
（注）箕面は最終予選へ進出
▽同南ブロック1回戦
和泉9―7愛泉
鳳10―2三国ケ丘
泉大津8―6泉北
岸和田13―5長野
▽同準決勝
和泉8―1鳳
岸和田8―7泉大津
▽同決勝
和泉16―3岸和田
（注）和泉は最終予選へ進出
▽同東ブロック1回戦（1試合）
つるみ商12―0高津
▽同2回戦
つるみ商20―1三島
春日丘7―2福女
摂津7―6門真
寝屋川5（延）3枚方
▽同決勝リーグ
つるみ商9―1春日丘
寝屋川6―4摂津
つるみ商8―0寝屋川
摂津7―1春日丘
つるみ商10―3摂津
春日丘9―8寝屋川
（注）つるみ商は最終予選へ進出
▽同中ブロック1回戦（1試合）
東大阪6―1八尾
▽同準決勝
大女短付11―4東大阪
城南8―6山本
▽同決勝
大女短付17―8城南
（注）大女短付は最終予選へ進出
▽最終予選女子1回戦（決勝リーグ進出校決定戦）
大谷9―5大女短付
天王寺6―5つるみ商
住吉学園6―5和泉
箕面8―4四天王寺
大谷15―2天王寺
住吉学園14―5箕面
大谷9―5住吉学園
天王寺6―4住吉学園

【追録】前号既報・岡山県男子に次の2試合を追加
▽準々決勝　津山商12―3大安寺
▽準決勝　天城10―6津山商

箕面5―3天王寺
大谷15―2箕面
【順位】①大谷＝3年連続9度目の出場②住吉学園・天王寺・箕面

九州

▽……福岡県（開催県）
▼男子予選トーナメント1回戦
小倉西11―7東海
明善8―7門司
若松9―4西南
宗像9―7小倉工
久留米工24―11九産
筑紫中央15―11西田川
福岡工16―11博多工
香椎20―5田川工
▽同2回戦
小倉西24―5明善
若松18―9宗像
久留米工35―9筑紫中央
福岡工19―9香椎
▽同決勝リーグ
小倉西16―6福岡工
久留米工10（分）10若松
福岡工17―13若松
久留米工14―12小倉西
久留米工17―11福岡工
小倉西10―8若松
【順位】①久留米工2勝1分③小倉

西2勝1敗③福岡工1勝2敗④若松1分2敗＝久留米工は初の出場
小倉西は4年連続5度目の出場

▼女子決勝リーグ進出校決定戦
古賀 10—1 東海
筑紫女 11—1 筑紫中央
福岡女 16—1 嘉穂農
福岡女商 5—3 明善

▽同決勝リーグ
古賀 9—5 福岡女
筑紫女 6—2 福岡女商
筑紫女 5—3 古賀
福岡女商 9—6 福岡女
古賀 6—3 福岡女商
筑紫女 7—3 福岡女

【順位】①筑紫女学園3戦全勝②古賀2勝1敗③福岡女商1勝2敗④福岡女3敗＝筑紫女学園は4年ぶり3度目の出場、古賀は2年連続3度目の出場

▽……長崎県

▼男子予選リーグA組
鹿町工 30—6 佐世保専商
鹿町工 26—9 日大高

▽同B組
長崎工 23—6 佐世保工(定)
佐世保北 11—8 西海
長崎工 22—8 西海
佐世保北 17—9 佐世保工(定)
長崎工 13—9 佐世保北
西海 18—6 佐世保工(定)

▽同C組
佐世保西 9—7 口加
西彼 17—13 造船高
佐世保西 26—7 造船高
口加 20—14 西彼
佐世保西 20—6 西彼
口加 22—8 造船高

▽同決勝リーグ
鹿町工 12—7 佐世保西
長崎工 10—6 佐世保西
鹿町工 19—11 長崎工

【順位】①鹿町工＝鹿町工は8年ぶり3度目の出場②長崎工③佐世保

▼西女子予選リーグA組
佐世保北 11—3 西彼
佐世保商 11—6 佐世保北
佐世保商 17—5 西彼

▽同B組
島原農 17—2 佐世保女
日大高 4—2 長崎北
島原農 6—4 日大高
佐世保女 4—3 長崎北
島原農 10—5 長崎北
日大高 13—5 佐世保女

▽同決勝トーナメント1回戦
佐世保商 11—8 日大高
島原農 11—5 佐世保北

▽同3位決定戦
佐世保北 9—6 日大高

▽同決勝
佐世保商 11—6 島原農
佐世保商は2年ぶり6度目の出場

▽……熊本県

▼男子1回戦
水俣工 27—7 御船
熊本商 28—12 天草工
東海二 31—6 八代
鎮西 24—9 天草農
熊本市立 14—12 天草
熊本 19—11 八代農
水俣 26—15 大矢野
球磨商 12—11 真和
マリスト 15(延)14 菊池農
八代工 18—8 河浦
熊本二 17(延)15 小川工

▽同2回戦
水俣工 12—10 済々黌
九州学院 17—11 熊本商
東海二 18—13 鎮西
第一工 25—8 熊本市立
熊本市商 25—7 熊本
水俣 14—12 球磨商
マリスト 16—5 八代工
宇土 21—17 熊本二

▽同準々決勝
熊本市商 14—8 水俣
マリスト 13—9 宇土
九州学院 8(延)7 水俣工
第一工 19—7 東海二

▽同準決勝
熊本市商 10—5 マリスト
第一工 11—6 九州学院

▽同決勝
熊本市商 15—12 第一工
熊本市商は4年ぶり13度目の出場

▼女子1回戦
牛深 14—10 鎮西
松島商 26—3 信愛
九州女 11—4 菊池農
倉岳 9—4 熊本商

▽同2回戦
熊本女商 14—5 牛深
尚絅 33—9 御船
大矢野 9—7 菊池女
松島商 8—3 水俣
天草 10—2 九州女
天草農 20—3 八代
鹿本商工 15—9 球磨商
熊本市立 15—2 倉岳

▽同準々決勝
熊本女商 23—8 尚絅
松島商 28—2 大矢野
天草 19—6 天草農
熊本市立 19—7 鹿本商工

▽同準決勝
熊本市立 9—3 天草
熊本女商 15—4 松島商

▽同決勝
熊本女商 5—2 熊本市立
熊本女商は初出場

▽……大分県

▼男子1回戦(1試合)
大分電波 15—12 大分商

▽同準々決勝
大分東 44—7 同東農
鶴崎工 27—13 雄城台
鶴見ケ丘 7—0 日田商
大分電波 37—21 国東

▽同準決勝
大分東 35—9 鶴見ケ丘
鶴崎工 — 大分電波

▽同3位決定戦
大分電波 24—19 鶴見ケ丘

▽同決勝
大分東 20—12 鶴崎工
大分東は2年連続3度目の出場

▼女子決勝リーグ
青山 13—1 玖珠農
大分東 14—1 中津北
青山 17—2 中津北
大分東 21—1 玖珠農
玖珠農 15—4 中津北
大分東 13—9 青山

【順位】①大分東3戦全勝②＝大分東は3年連続8度目の出場②青山2勝1敗③玖珠農1勝2敗④中津北3敗

☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

東欧勢の国内リーグ

日本でも全日本選手権のリーグ戦化が話題になりはじめているがヨーロッパ諸国では、至極あたりまえの話。

特に東欧圏は、ポーランドが、10チーム4回総当りという思い切った策に出ているほか、東ドイツが10チーム3回総当り、チェコが12チーム2回総当り、ユーゴが14チーム2回総当りとスケールの大きい組織だ。

ソビエトは8チーム3回総当りだが、各地転戦ではなく、リーグ戦を3回行って、通算成績を競うシステム。

東欧勢の世界における強さの背景は、こうしたところにもうかがわれる。

ユーゴが5連勝　タシマイダン杯

サマーシーズンで唯一といってもよい国際トーナメント、第15回タシマイダン・カップがこのほどザビトビッチ（ユーゴ）で4ケ国を集めて行われ、地元ユーゴが5連勝を飾った。

ユーゴは、ホルバト、ポポビッチの両ベテランが、めきめき売り出してきたラデノビッチ（昨秋来日）、新人パビセビッチを巧みに使い、3試合で66得点、52失点と順調、世界選手権1位のルーマニア、同2位の東ドイツ（今秋来日）それにハンガリーを降した。

この大会はヨーロッパではめずらしく、屋外コートを使って行われており、東ドイツハンガリー戦は東ドイツが6－4とリードしたところで雨が激しくなり中止されている。

ユーゴ	23	11－10	12－9	19	ハンガリー
ルーマニア	20	7－8	13－10	18	東ドイツ
ユーゴ	28	17－9	11－12	21	東ドイツ
ルーマニア	18	8－7	10－9	16	ハンガリー
ユーゴ	15	7－7	8－5	12	ルーマニア

【順位】①ユーゴ②ルーマニア③東ドイツ・ハンガリー

ラザレビッチ、西ドイツへ

ミュンヘンオリンピック優勝の原動力となったユーゴの主砲・ラザレビッチ（昨秋来日）は、かねてから西ドイツのクラブ入りを噂されていたが、どうやらそれが本決りになったようだ。

しかも、落ちつきさきが、3年前、FA・ギョッピンゲンからルブキングを引き抜いたTUS・ネッテルスステットとあって、がぜん話題が高まっている。

同クラブは、ルブキングらを強引に迎えた補強策があたりウエストファーレン地区の4部からシーズンごとにクラスをあげ、昨シーズンは2部で15勝1敗、来シーズン（9月開幕）は1部入りをはたす。

しかし、グンメルスバッハ、ダンケルセンなどの強豪クラブが在籍する全国リーグへ昇格するにはルブキング、ラザレビッチという大スターがいかに大活躍してもあと2年はかかる勘定。

ファンは、その日が来るのを楽しみにしているというが、いつもながら、ヨーロッパにおけるハンドボール界の人気と、層の厚さには驚ろかざるを得ない。

なお、ラザレビッチが、ユーゴナショナルとどう〝関係〟していくかは詳びらかにしない。

ユーゴ、女王の貫録　ユーゴ国際

昨冬の世界女子選手権でベストスリーとなったユーゴ、ルーマニア、ソ連それに強豪東ドイツを加えた豪華な顔ぶれによって、タシマイダンカップ（前掲）と並ぶ恒例の「ユーゴ女子カップ」が6月末ユーゴで行われ、女王ユーゴが圧倒的な強味をみせて優勝を飾った。

各国の最多得点者はユーゴがスデリノビッチ12、ソビエトがツルシーナ11、ルーマニアがフルコイ6、東ドイツがカーント9だった。GKでは相変らずユーゴのベテラン、イストバノビッチが光っていたようだ。

ユーゴ	19	9－9	10－9	18	東ドイツ
ソ連	19	7－15	12－5	15	ルーマニア
ルーマニア	15	8－5	7－3	8	東ドイツ
ユーゴ	15	8－5	7－3	8	ソ連
ユーゴ	14	6－1	8－5	6	ルーマニア
ソ連	16	5－5	11－5	10	東ドイツ

【順位】①ユーゴ3戦全勝②ソ連2勝1敗③ルーマニア1勝2敗④東ドイツ3敗

20クラブの女子国際大会

ヨーロッパ7ケ国から20クラブが参加するというめずらしい女子の国際大会が、このほど西ドイツで開かれた。

夏のキャンプ地としても有名なウラアでの「グラフ・エーデルハルット・カップ」がそれで、緑の木々に囲れたグラスコートに、色とりどりのユニホームが乱れ、壮観だったという。

競技は5チームづつ4組の予選リーグのあと、各組勝者で決勝トーナメントを争ったが、予想どおり、フェレンクバロス・ブダペスト（ハンガリー）×ポクトバク・ベルグラード（ユーゴ）の顔合せから10－4でブダペストが優勝を飾った。

活気のない西独の11人制

11人制の伝統の灯を守りつづけている西ドイツは、2年前全国リーグを休止したが、その代替ともいうべき地域リーグは、もう一つ熱気に欠け、前途は多難な感じである。

11人制の西ドイツ選手権は、5つの地域リーグ勝者で9月に争われるが、かつての精気がのぞかれず、三万近いファンを動員したこともある往年の人気は昔話の感じ。かわって、女子が夏季大会として採用している屋外7人制のリーグが男子でもボツボツ始められており、11人制の斜陽化を早めている。

IHF会長来日か

IHF会長・ホグバーグ夫妻（スウェーデン）は近くアジア旅行に出るが8月なかば、日本へ立ち寄るかもしれない。

九州産大 西部学生に3連勝

中四国学連と九州学連による第24回（女子第2回）西部日本学生選手権は6月15、16日の両日福岡・九州産大、東海大両体育館に男子16（中四国5、九州11）女子2（中四国、九州各1）が参加、トーナメントで行われた。

男子は、1回戦で中四国春の優勝校・岡山大が九州工大に敗れたほか、前年2位の修道（中四国）は準々決勝で福岡大と大接戦、辛くも抽せん勝ちするなど、もつれた展開になった。

結局、決勝は2年つづけて九州産大×修道の組み合せとなり、九州産大が立ちあがりから押しまくって快勝、3連勝を飾った。九州側の優勝は3年連続9度目。

女子は、山口大が今年も攻守に一日の長を示して福岡教大に完勝2連勝した。

▼男子1回戦

九州産大（九州）36（20－5、16－5）10 鹿児島大（九州）
九州工大（九州）15（9－4、6－3）7 岡山大（中四国）
熊本商大（九州）25（17－8、8－9）17 広島工大（中四国）
福岡教大（九州）21（9－12、12－3）15 西南学院（九州）
山口大（中四国）22（10－6、12－5）11 福岡工大（九州）
広島大（中四国）23（13－9、10－5）14 東海（九州）
福岡大（九州）31（18－8、13－9）17 熊本大（九州）
修道（中四国）28（15－5、13－3）8 九州大（九州）

▽同準々決勝

九州産大 45（21－6、24－4）10 九州工大
熊本商大 13（7－5、6－3）8 福岡教大
山口大 14（9－4、5－9）13 広島大
修道 21（1－0、0－1 …… 10－12、10－8）21 福岡大
引き分け

▽同準決勝

九州産大 11（6－2、5－2）4 熊本商大
修道 25（14－8、11－10）18 山口大

▽同3位決定戦

熊本商大 22（14－8、8－8）16 山口大

▽同決勝

九州産大 27（14－11、13－5）16 修道

▼女子決勝

山口大（中四国）8（3－2、5－2）4 福岡教大（九州）

金沢工大は7連勝遂げる

北信越

◇6月14～16日◇金沢工大体育館◇参加6校

7連勝を狙う金沢工大を筆頭に福井大、富山大を中心としてリーグは展開、各試合とも熱気に満ちた若々しい内容であった。

第1日、金沢工大が富山大を降して最初の難関を突破、福井大も金沢大を破り順発に勝ち星をあげた。

第2日、金沢工大が信州大（長野）と2－2の珍スコアで引き分け、富山大×福井大は富山大が勝ち、この日で全勝校はなくなった。なお、金沢工大が46年春（6月）の信州大戦以来つづけていた連勝記録は23でストップした。

最終日、金沢工大はファイトにあふれた攻守を示し福井大を破って3勝目をマーク、最終戦でも金沢美工大を危気なく制し、地元の声援に応えて46年春以来、7シーズン連続優勝を飾った。2位は福井大。

金工大×信州大2対2の珍記録

金沢工大 9（6－3、3－3）6 富山大
福井大 13（7－5、6－5）10 金沢大
信州大 22（9－2、13－1）3 金沢美術工芸大
富山大 11（5－6、6－4）10 福井大
金沢大 22（12－4、10－1）5 金沢美術工芸大
金沢工大 2（1－2、1－0）2 信州大
引き分け
福井大 30（18－6、12－7）13 金沢美術工芸大
富山大 10（3－6、7－1）7 信州大
金沢工大 12（5－5、7－2）7 金沢大
金沢工大 10（5－2、5－5）7 福井大
金沢大 13（9－3、4－2）5 信州大
富山大 18（8－5、10－6）11 金沢美術工芸大
福井大 23（8－3、15－2）5 信州大
金沢工大 13（7－2、6－2）4 金沢美術工芸大
富山大 9（3－4、6－3）7 金沢大

【順位】①金沢工大4勝1分②富山大4勝1敗③福井大3勝2敗④金沢大2勝3敗⑤信州大1勝1分3敗⑥金沢美術工芸大5敗

早大5連勝

早稲田×関学

伝統の第29回定期戦は6月22日東京・早大記念会堂で行われ、早稲田が圧倒的な強味を見せ快勝、5年連続優勝し通算成績は関学15勝、早稲田14勝とかわった。

早稲田 36（18－4、18－0）4 関学

金沢大が2年連続優勝

北陸3大学総合体育大会ハンドボール競技は7月7日金沢・実践倫理記念会館で行われ、金沢大（石川）がGKの堅守と速攻で、源野を中心とする福井大をおさえて2年連続3度目の優勝を飾った。

金沢大（石川） 23（14―3、9―3）6 富山大（富山）
福井大（福井） 32（19―5、13―5）10 富山大
金沢大 19（14―7、5―5）12 福井大

【順位】①金沢大②福井大③富山大

東北学院・東北大制す

第25回東北地区大学総合体育大会ハンドボール競技は、東北学院×東北大の宮城同士で決勝、東北学院が勝った。

▽決勝
東北学院 18（9―10、9―6）16 東北大

中央と東女体大が勝つ

関東学生新人戦

第12回関東学生新人戦は6月、東京・駒沢第一球技場で行われ、男子（25校）はトーナメントの結果、中央が2連勝した。

女子リーグ（5校）は東京女体大の全勝優勝。

▽男子1回戦勝者 法政、日本工大、国士館、青山学院、専修、東海、武蔵、東教大、駒沢
▽同2回戦勝者 中央、日体、日大、青山学院、早稲田、関東学院東京教大、慶応
▽同準々決勝
中央 棄権 日体
日大 15―14 青山学院
早稲田 24―10 関東学院
慶応 22―10 東京教大
▽同準決勝
中央 28―13 日大
早稲田 19―13 慶応
▽同決勝
中央 21（7―7、14―6）13 早稲田
▽女子リーグ
日体 17―7 東京学芸大
日体 15―5 日女体大
東女体大 23―1 東京教大
東女体大 21―2 日大体大
日女体大 7―3 東京教大
東女体大 19―7 東京学芸大
東京教大 棄権 日体
東京学芸大 14―12 日女体大
東京教大 16―9 東京学芸大
東女体大 棄権 日体

【順位】①東京女体大4戦全勝②東京教大・日体④東京学芸大・日女体大

東海は名城と中京女

第5回東海学生新人戦は6月、名古屋・天神山ハンドボール場で行われ、男子（12校14チーム）は名城が2年ぶり2度目の優勝、女子（4校）は中京女大が3度目の優勝を遂げた。

▽男子準々決勝
中京A 11―8 静岡大
岐阜大A 9―7 中部工大
名城 12―7 中京B
名大 13―11 愛大名古屋
▽同準決勝
中京A 17―14 岐阜大A
名城 25―6 名大
▽同3位決定戦
名大 26―11 岐阜大A
▽同決勝
名城 22（9―5、13―3）8 中京A
▽女子1回戦（＝準決勝）
中京 12―6 岐阜大
中京女 18―4 愛知教大
▽同決勝
中京女 20（11―1、9―1）2 中京

▼第4回岐阜県学生選手権（6月岐阜高専）
▽男子準決勝
岐阜大農工 8―7 岐阜大教育
岐阜高専 17―8 岐阜歯大
▽同決勝
岐大農工 17（5―8、12―2）10 岐阜高専

▼中四国学生春季リーグ1・2部入れ替え戦

愛媛大1部へ（6月16日・高松工芸高）

愛媛大（2部） 11（1―10、2―0、4―4、4―4）9 香川大（1部）

高校生が運営の連盟発足 東京杉並区

6月のある土曜日、小さな連盟がうぶ声をあげた。ただそれだけなら、しごく平凡な話なのだが、この連盟、いっさいの運営を高校生が行うという。会長には17才の2年生クンが選ばれた。なんともたのもしいヤング・パワーがでてきたものではないか——

□……「東京・杉並区高等学校ハンドボール連盟」。

かかげられた看板だけを見ればとても高校生が自主運営している組織とは思えない。

しかも、準備から結成までわずか2ケ月。

日頃から試合数が少いのに不満をもっていた杉並高3年の出倉光一君らが中心となって、せめて区内の高校だけでも大会を開けないか、と考えたのが連盟創設の動機である。

さっそく、趣意書がつくられ区内の高校に送ったところ6校（男女合わせて10チーム）が賛成、大いにやろう、ということになった

□……6月22日、杉並高校の一室は、新しいものを創り出そうとする若者の素直な喜びにあふれていた。熱気がこもっていた。

″連盟″らしく7章42条の会則が審議され、一週間後、正式に発足と決定、会長に杉並高2年の斉藤雅明君を選んだ。17才のプレジデント、ハンドボールに限らず他のスポーツでも、ちょっと例のない話だろう。

□……問題点もすでにあらい出されている。

レフェリーなどは、加盟各校のOB、OGに依頼することで見通しはあるが、会場確保や負傷など不測の事態の処理は、いかになんでも高校生だけでは難しい。

『やはり、一部の面では、顧問の先生がたに指導・援助していただくことになりました』（出倉君の話）

□……熱心な生徒のいるうちはよいが、と永続性を危ぶむ声もあるが、会則の目的には「杉並区内のハンドボール普及を目指し、杉並区民大会へのハンドボール競技参加の実現に努力する」こともうたわれている。

これからのスポーツが、地域を無視しては成長していかないことを、高校生の目は鋭くとらえているし、そこに、発起人たちのなみなみならぬ結束と熱意を汲みとれよう。

□……杉並高の顧問、岡村昭二教論は、出倉君たちの動きを聞いて「よくやるなあ」と感嘆したそうだ。

かって日本協会常務理事として敏腕を揮いハンドボールの虫といわれた同教論でさえも舌を巻いた″若き活動家″たちの最初の事業は、9月の「杉並区高校選手権」（仮称）である。

社内あげてのハンドボール 大崎電気・ブリヂストン

このところ社内ハンドボールの動きがしきりに伝えられる。

大崎電気埼玉工場、ブリヂストンタイヤの″大会″をのぞいてみると…。

□……大崎電気埼玉工場のハンドボール熱は相当なものだ。

緑の木立ちに囲れた2面のアンツーカーコートは、休み時間になると愛好者でアッという間にいっぱいになる。

大崎電気といえば、男女あわせて全国タイトル獲得20余回という強豪、それだけに社内の関心も高いのだが、いつのころからか、見よう見まねで実際にプレーする社員が目立つようになった。

□……指導者にはこと欠かないし、しかも、全日本級ときている。

どうにか、かっこうがついてくると、職場単位にチームが生まれ対抗試合から、リーグ戦へと発展するのに時間はかからなかった。

昨年秋、華々しく7チームでスタート、今春は10チーム、秋には13チームがみこまれる高度成長で工場員4人に1人が″選手″となった。会社側も、人間関係の広がりや、生産性の向上などプラス面に目を細め、賞品などをだしてリーグ戦を後援、今や大崎電気にとってハンドボールは、選手だけのものから、文字どおり「社技」になった。

□……ブリヂストンにおけるハンドボール普及もすごい。

大崎電気の場合は、下からの盛りあがり、いわば″自然発生″的なものだが、ブリヂストンは、安全能力の養成や、仲間意識に役立つ球技として、計画的、組織的にハンドボールの芽を伸ばしている

全国各工場に配置されているスポーツ指導者を集めて研修を行うなどの活動は、すでに本誌でも紹介されているが、このほど久留米工場体育館に全国から12チームを集めて、第1回の″全日本大会″を開いた。時期尚早というみかたもあったが、どうしてなかなかの熱戦。久留米工場が初優勝を飾って盛況裡に幕を閉じた。

三菱レ大竹が8度目の優勝

各地の記録

第19回中国一般男子選手権は7月6・7の両日、岡山県玉野市・青少年スポーツセンターに16チームが参加、トーナメントで行われた。

焦点とみられた実業団―伝統のクラブ勢の争いは、地力をつけつつある実業団がベストエイトのうち五つを占め、結局、決勝は広島県内で激しいせりあいをみせている三菱レ大竹と日新製鋼呉の顔合せとなり、三菱レが前半から優位に立って快勝、2年連続8度目の優勝を遂げた。広島代表の優勝は2年連続14度目。

同時に行われた第2回中国一般女子選手権は、広島第一女商OGが、徳山高OG(山口)、岡山女短大を退け2連勝した。

▽男子1回戦

日新製鋼呉(広島) 21（11—2、10—5）7 岡山大(岡山)

山口教員(山口) 19（8—2、11—7）9 米子高専(鳥取)

武田薬品光(山口) 9（3—2、6—5）7 広島教職員ク(広島)

川崎製鉄水島(岡山) 21（11—3、10—7）10 フェニックス(鳥取)

日本鋼管福山(広島) 14（5—8、9—5）13 岡山教員(岡山)

下関ク(山口) 9（5—2、4—3）5 倉敷商OB(岡山)

三菱レ大竹(広島) 不戦勝 米子HC(鳥取)

徳山ク(山口) 16（8—5、8—2）7 児島柏会(岡山)

▽同準々決勝

日新製鋼呉 19（13—5、6—6）11 山口教員

武田薬品光 18（6—8、12—6）14 川崎製鉄水島

下関ク 14（7—4、7—5）9 日本鋼管福山

三菱レ大竹 10（4—2、6—7）9 徳山ク

▽同準決勝

日新製鋼呉 26（13—7、13—11）18 武田薬品光

三菱レ大竹 15（6—4、9—6）10 下関ク

▽同決勝

三菱レ大竹 26（12—6、14—11）17 日新製鋼呉

▽女子リーグ（3チーム参加）

広島一女商OG(広島) 21（13—0、8—1）1 岡山女短大(岡山)

徳山高OG(山口) 22（10—2、12—2）4 岡山女短大

広島一女商OG 13（4—2、9—3）5 徳山高OG

【順位】①広島一女商OG②徳山高OG③岡山女短大

石川勢が3部門制す

第21回北陸3県競技会ハンドボールは6月9日富山・氷見商球技場で4部門にわたって行われ、石川勢が高校男女など3部門を制覇した。

▽一般男子リーグ

福井(全福井) 25—16 石川(あすなろク)

富山(富山想球会) 22—15 福井

石川 14—10 富山

▽同女子リーグ

石川(小松OG) 13—1 福井(全福井)

富山(氷見ク) 8—7 福井

石川 13—2 富山

▽高校男子リーグ

石川(小松工) 28—11 福井(福井商)

富山(高岡商) 17(分)17 福井

石川 13—9 富山

▽同女子リーグ

石川(小松市女) 15—3 福井(武生商)

富山(小杉) 9—6 福井

石川 4—2 富山

児島柏会、岡山大破る

▼岡山県一般優勝大会（5月・岡山大）〈男子のみ〉

▽準々決勝

岡山教員 18—10 川鉄

岡山大 2—0 落合7

倉敷商OB 13—7 津山工専

児島柏会 21—13 天城OB

▽準決勝

岡山教員 17—15 岡山大

児島柏会 19—13 倉敷商OB

▽同決勝

児島柏会 19（10—7、9—7）14 岡山教員

岩津、女子決勝で惜敗

▼第28回愛知県高校総体ハンドボール競技（5月・天神山）

▽男子準決勝

名南工 8—6 桜台

名城大附 10—9 豊橋工

▽同3位決定戦

豊橋工 10—8 桜台

▽同決勝

名南工 9（1—5、8—3）8 名城大附

▽女子準々決勝

市邨学園 13(延)8 半田

蒲郡 9—6 安城学園

高蔵 12—1 西尾

岩津 7—1 半田商

▽同準決勝

市邨学園 12—2 蒲郡

岩津 7(延)5 高蔵

▽同3位決定戦

高蔵 14—3 蒲郡

▽同決勝

市邨学園 7（3—2、4—3）5 岩津

鉾田クと麻生高OG勝つ

▼第4回茨城クラブトーナメント（5月・県立鉾田二高）

▽男子1回戦（2試合）

鉾田ク 17—15 新治ク

麻生ク 33—12 桜水ク

▽同準決勝

鉾田ク 14—10 土浦三高ク

麻生ク 13—11 土浦ク

▽同決勝

鉾田ク 20（9—7、11—3）10 麻生ク

▽女子決勝

麻生高OG 10（7—3、3—1）4 桜水ク

岐大と帝人製機が2勝

▼第1回岐阜県実業団×学生（6月・大垣市スポーツセンター）

▽A組

三洋電機 14—12 日本耐酸壜

岐阜大 13—9 日本耐酸壜

岐阜大 15—15 三洋電機

▽B組

岐阜歯大 12—3 太平洋工業

帝人製機 16—3 岐阜歯大

帝人製機 20—6 太平洋工業

▽個人得点（A・B通算）1位・遠藤均（帝人製機）12点

海自下総が全勝優勝

▼千葉県実業団夏季定期戦（7月下総航空基地球技場）

▽1部順位①海自下総教空群4戦全勝②三井石油化学3勝1敗③梅自3術校2勝2敗④丸善石油千葉製油所1分3敗⑤住友千葉化学1分3敗

▽2部順位①陸自下志津②海自21航空群③日産化学④陸自松戸⑤ヤトロン(株)

男女とも調布市勝つ

▼第26回東京都民体育大会ハンドボール競技（6月・駒沢）

▽男子準々決勝
調布市（ジューキ・ク）21―6 墨田区（混成）
練馬区（S・D・P）棄権 品川区（大崎電気）
文京区（三景）24―15 江東区（友四会）
千代田区（三景）30―11 中央区（大成プレハブ）

▽同準決勝
調布市 棄権 練馬区
文京区 23―22 千代田区

▽同決勝
調布市 20（10―8、10―11）19 文京区

▽女子1回戦
大田区（東花ク）20―4 台東区（混合）
新宿区（ジューキOG）棄権 練馬区（美和ク）

▽同準決勝
調布市（東京重機）19―5 大田区

▽同決勝
調布市 19（13―5、6―6）11 新宿区

大学×高校で強化試合

▼第3回宮城県協会長杯争奪男子強化選抜リーグ（6月、仙台）

東北大 21―14 仙台育英高
東北学院大 24―12 宮城水産高
東北大 17―12 宮城水産高
東北学院大 28―16 仙台育英高

中学大会記録

◇茨城・国体記念第1回県中学大会（5月、水海道中）参加＝男17、女12

▽男子準々決勝
麻生一 22―5 岩瀬西
水海道西 11―8 茎崎
麻生 11―9 水海道
土浦一 17―11 鬼怒

▽同準決勝
麻生一 19―5 水海道西
土浦一 11―9 麻生

▽同決勝
麻生一 17（9―4、8―6）10 土浦一

▽女子準々決勝
玉造 10―6 結城
岩井南 12―0 麻生
北浦 14―5 麻生一
水海道西 10―6 千代田

▽同準決勝
玉造 9―5 岩井南
北浦 6―5 水海道西

▽同決勝
玉造 10（1―6、7―2、……、1―0、1―1）9 北浦

◇三重・第3回県中学生大会（5月・四日市緑地体育館）参加＝男3、女11

▽男子決勝リーグ
平田野 10―6 菰野
菰野 16―12 南
平田野 15―12 南
【順位】①平田野②菰野③南

▽女子準々決勝
四日市中部 5―3 富洲原
南 13―7 笹川
菰野 10―4 北勢
平田野 12―4 明和

▽同準決勝
四日市中部 13―3 南
菰野 5―4 平田野

▽同決勝
四日市中部 13（6―3、3―6、……、2―0、2―0）9 菰野

◇沖縄・第3回県選手権（6月）参加＝男11、女8

▽男子準々決勝
津堅 21―13 那覇
糸満 16―8 読谷
仲西 14―11 浦添
安岡 12（延）11 神森

▽同準決勝
津堅 9―5 糸満
安岡 13―12 仲西

▽同決勝
安岡 14（8―6、6―5）11 津堅

▽女子準々決勝
神森 6―4 安岡
仲西 13―11 具志頭
古蔵 11―6 首里
浦添 8―0 コザ

▽同準決勝
神森 14―4 仲西
浦添 8―4 古蔵

▽同決勝
浦添 8（3―4、5―2）6 神森

◇和歌山・県総合選手権中学の部（5月・県和歌山商）参加＝男8、女6

▽男子準々決勝
岩倉 21―7 箕島
打田 12―3 貴志川
岩出 14―9 粉河
鳥屋城 13―3 白浜

▽同準決勝
岩倉 12―4 打田
岩出 12―8 鳥屋城

▽同決勝
岩倉 13（5―5、8―6）11 岩出

▽女子1回戦（2試合）
岩出 19―5 貴志川
鳥屋城 17―0 箕島

▽同準決勝
鞆渕 14―4 岩出
鳥屋城 4―2 桃山

▽同決勝
鳥屋城 3（1―1、2―0）1 鞆渕

和歌山事務局変更 和歌山協会はこのほど事務局を次のように変更した。理事長は中井泰彦氏
和歌山市湊・和歌山商業高校気付

〔**訂正**〕本誌120号31頁各地の記録和歌山県春季総合選手権・男子準々決勝のうち、丸善石油21―12桐蔭高Aは、丸善石油21―12和歌山高専の誤りでした。

編集後記

□……夏のシーズンが到来しました。8月の行事予定をみたら、日本協会の関連事業が行われていない日はわずか5日間だけ、という過密ぶり。
　選手諸君の健斗を祈るとともに役員、レフェリー諸氏の健斗も祈るものです。

□……ヨーロッパ諸国のハンドボール協会誌を見る機会がありました。
　内容は、本誌と大同小異ですが、記事の多彩さでは我々のものが一番のようで、気をよくしています。
　もちろん、西ドイツの「週刊ハンドボール」のような商業誌にはかないませんが、編集部の目標の一つには、商業誌的面白さを盛りこむこともあります。

□……素人の集りであるスタッフの能力にはおのずと限界もあるのですが、それを、読者が記者になったつもりでカバーして下さると助かります
　最近「これは機関誌でいけるぞ」という皆さん側の〝判断〟で寄せられるニュースが多くなりました。
　本誌に載った面白い記事、興味深いリポートは、ほとんど「読者の作品」なのです。
（S・S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』 第一二二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十九年七月二十五日印刷 昭和四十九年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代代（[illegible]）三一一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百五十円（年間購読料二千三百円）